

Oracle9i Lite

管理者ガイド

リリース 5.0.1

2002 年 4 月

部品番号 : J06012-01

ORACLE®

Oracle9i Lite 管理者ガイド, リリース 5.0.1

部品番号 : J06012-01

原本名 : Oracle9i Lite Administration Guide, Release 5.0.1

原本部品番号 : A95260-01

Copyright © 1996, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved.

制限付権利の説明

プログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、**Oracle Corporation** (米国オラクル) または**日本オラクル株式会社** (日本オラクル) を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションに用途として開発されておりません。オラクル社製品を上記のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である **Oracle Corporation** (米国オラクル) およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供するには、『**Restricted Rights**』と共に提供してください。この場合次の **Notice** が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

| | |
|--|-----|
| はじめに | ix |
| 1 概要 | |
| 1.1 Mobile サーバー | 1-2 |
| 1.2 概念と用語 | 1-2 |
| 1.3 実装のためのチュートリアル | 1-2 |
| 1.4 詳しい実装方法 | 1-3 |
| 2 概念 | |
| 2.1 Mobile サーバー環境 | 2-2 |
| 2.1.1 Mobile クライアント | 2-3 |
| 2.1.2 Mobile サーバー | 2-3 |
| 2.1.3 データベース・サーバー | 2-4 |
| 2.2 同期の概念 | 2-4 |
| 2.2.1 データ同期 | 2-4 |
| 2.2.2 データおよびアプリケーションの同期 | 2-4 |
| 2.3 アクセス制御の管理 | 2-5 |
| 2.3.1 Mobile サーバー・コントロール・センター | 2-5 |
| 2.3.2 Web-to-Go ロール | 2-5 |
| 2.4 Web-to-Go 用 Mobile クライアント・サイトの追跡 | 2-6 |
| 3 スタート・ガイド | |
| 3.1 一般的な流れ | 3-2 |

4 Mobile サーバー・コントロール・センターの概要

| | | |
|-----|----------------------------------|-----|
| 4.1 | ログオン | 4-2 |
| 4.2 | Mobile サーバー・コントロール・センターの概要 | 4-5 |
| 4.3 | Mobile サーバーの管理タスク | 4-6 |

5 ユーザーの管理

| | | |
|-----|----------------------------|------|
| 5.1 | ユーザーおよびユーザー・グループのリスト | 5-2 |
| 5.2 | ユーザーの作成 | 5-2 |
| 5.3 | ユーザーの変更または削除 | 5-5 |
| 5.4 | グループの作成 | 5-9 |
| 5.5 | グループの変更または削除 | 5-11 |

6 Mobile アプリケーションの管理

| | | |
|-------|--|------|
| 6.1 | アプリケーションのリスト表示 | 6-2 |
| 6.2 | Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード | 6-2 |
| 6.2.1 | データベース表の作成 | 6-3 |
| 6.3 | アプリケーション・プロパティの変更 | 6-4 |
| 6.4 | Mobile サーバーからのアプリケーションの削除 | 6-6 |
| 6.5 | アプリケーションの一時停止 | 6-7 |
| 6.6 | アプリケーションの再開 | 6-8 |
| 6.7 | セキュリティ | 6-9 |
| 6.7.1 | ユーザーまたはグループに対するアプリケーション・アクセス権の付与または取消し ... | 6-9 |
| 6.7.2 | グループ・レベル・アクセスでのユーザーの包含と除外 | 6-11 |
| 6.7.3 | ユーザーに対する Web-to-Go ロールの付与または取消し | 6-12 |
| 6.7.4 | グループに対するアプリケーション・ロールの付与または取消し | 6-14 |
| 6.8 | データ・サブセッティング・パラメータの変更 | 6-15 |
| 6.9 | レジストリ・エントリの変更 | 6-19 |
| 6.10 | パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択 | 6-22 |
| 6.11 | システム・ブックマークの作成 | 6-25 |

7 Mobile サーバーの管理

| | | |
|-----|-------------------------------|-----|
| 7.1 | サーバーのシステム・ステータス・レポートの表示 | 7-2 |
| 7.2 | サーバーの一時停止 | 7-4 |
| 7.3 | サーバーの再開 | 7-5 |
| 7.4 | アクティブなユーザー・セッションの表示 | 7-6 |

| | | |
|-----------|---|------|
| 7.5 | Mobile サーバー・リポジトリへの SSL サーバー証明書のアップロード | 7-6 |
| 7.6 | Message Generator and Processor (MGP) の起動 | 7-8 |
| 7.7 | MGP の停止 | 7-9 |
| 8 | Web-to-Go サイトの管理 | |
| 8.1 | サイトのリスト | 8-2 |
| 8.2 | Mobile サーバーからのサイトの消去 | 8-2 |
| 8.3 | サイト詳細の表示 | 8-3 |
| 9 | Web-to-Go ジョブの管理 | |
| 9.1 | データ同期ジョブのスケジュール | 9-2 |
| 9.2 | データ同期ジョブのスケジュールの表示 | 9-2 |
| 9.3 | 新しいデータ同期ジョブの作成 | 9-3 |
| 9.4 | データ同期ジョブの編集 | 9-4 |
| 9.5 | データ同期ジョブの削除 | 9-5 |
| 10 | レプリケーションの管理 | |
| 10.1 | レプリケーションとスナップショットの管理 | 10-2 |
| 10.2 | スナップショット | 10-2 |
| 10.3 | スナップショット・テンプレート | 10-3 |
| 10.4 | Message Generator and Processor (MGP) | 10-4 |
| 10.4.1 | MGP のサイクル | 10-4 |
| 10.4.2 | MGP の構成 | 10-5 |
| A | トラブルシューティングのための FAQ | |
| A.1 | Mobile サーバー・リポジトリに含まれるファイルの検査 | A-2 |
| A.2 | デバッグ・モードでの Mobile サーバーの実行 | A-3 |
| A.3 | 最初の同期が原因で発生するブラウザのタイムアウト | A-4 |
| B | Mobile サーバー構成パラメータ | |
| B.1 | [WEBTOGO] | B-2 |
| B.2 | [FILESYSTEM] | B-6 |
| B.3 | [DEBUG] | B-6 |
| B.4 | [PUBLIC] | B-7 |

| | | |
|-----|----------------------------|-----|
| B.5 | [SERVLET_PARAMETERS] | B-7 |
| B.6 | [CONSOLIDATOR] | B-7 |

C init.ora での Consolidator 要件

| | | |
|-----|----------------------------------|-----|
| C.1 | 関連パラメータ同士の関係 | C-2 |
| C.2 | PROCESSES および DML_LOCKS の値 | C-2 |

D Secure Sockets Layer (SSL) のサポート

| | | |
|-------|---|-----|
| D.1 | サーバー側の構成 | D-2 |
| D.1.1 | スタンドアロン・モードの Mobile サーバー | D-2 |
| D.1.2 | Oracle9iAS と Apache Server の構成 | D-2 |
| D.1.3 | Mobile サーバー構成 | D-4 |
| D.1.4 | CA 証明書の設定 | D-4 |
| D.2 | クライアント側の構成 | D-4 |
| D.2.1 | Mobile クライアントと Mobile サーバーの間の通信 | D-4 |
| D.2.2 | ブラウザと Web-to-Go 用 Mobile クライアント間の接続 | D-5 |
| D.3 | 非 SSL の Mobile クライアントのサポート | D-5 |

E Mobile サーバーのスクリプト言語

| | | |
|-------|---------------------------|-----|
| E.1 | 構文の説明 | E-2 |
| E.2 | スクリプト INI ファイルの実行方法 | E-6 |
| E.3 | 例 | E-6 |
| E.3.1 | アクセス権の作成、追加および付与 | E-6 |
| E.3.2 | アクセス権の削除および取消し | E-8 |

F プロキシ・サーバーのバイパス

G 外部認証

| | | |
|-----|-----------------|-----|
| G.1 | 外部認証の使用 | G-2 |
| G.2 | 外部認証コードの例 | G-3 |

用語集

索引



| | | |
|------|--|------|
| 2-1 | Mobile サーバー環境 | 2-2 |
| 4-1 | Mobile サーバー・コントロール・センターの Web ページへのログオン | 4-2 |
| 4-2 | Mobile サーバー・コントロール・センターのリンク | 4-3 |
| 4-3 | Mobile サーバー・コントロール・センター | 4-4 |
| 5-1 | ユーザーの作成 | 5-4 |
| 5-2 | ユーザーの変更または削除 | 5-6 |
| 5-3 | ユーザー・サイトの表示 | 5-7 |
| 5-4 | グループの作成 | 5-10 |
| 5-5 | グループの変更または削除 | 5-12 |
| 6-1 | Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード | 6-3 |
| 6-2 | アプリケーション・プロパティの変更 | 6-5 |
| 6-3 | データベース接続情報の変更 | 6-6 |
| 6-4 | アプリケーションの削除 | 6-7 |
| 6-5 | アプリケーションの一時停止 | 6-8 |
| 6-6 | アプリケーションの再開 | 6-8 |
| 6-7 | アプリケーション・アクセス権の付与または取消し | 6-10 |
| 6-8 | ユーザーのロールの取消し | 6-13 |
| 6-9 | データ・サブセッティング・パラメータの変更 | 6-16 |
| 6-10 | データ・サブセッティング・パラメータの参照 | 6-17 |
| 6-11 | レジストリ・エントリの変更 | 6-20 |
| 6-12 | ユーザーの名前と値のペアの変更 | 6-21 |
| 6-13 | パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択 | 6-23 |
| 6-14 | システム・ブックマークの作成 | 6-25 |
| 6-15 | 「ブックマーク・プロパティ」パネル | 6-26 |
| 6-16 | 鉛筆アイコン | 6-27 |
| 6-17 | 「イメージのローディング」パネル | 6-29 |
| 7-1 | サーバーの一時停止 | 7-4 |
| 7-2 | サーバーの一時停止の警告ダイアログ・ボックス | 7-5 |
| 7-3 | サーバー再開の警告ダイアログ・ボックス | 7-5 |
| 7-4 | SSL サーバー証明書のアップロード | 7-7 |
| 7-5 | MGP を起動中 | 7-8 |
| 7-6 | MGP を停止 | 7-9 |
| 8-1 | サイトの削除 | 8-2 |
| 9-1 | 「ジョブの作成」パネル | 9-3 |
| 9-2 | スケジュール済みのジョブのリスト | 9-4 |
| F-1 | 「接続」タブ | F-2 |
| F-2 | ローカルエリア ネットワーク (LAN) の設定 | F-3 |
| F-3 | 「プロキシの設定」ダイアログ・ボックス | F-4 |

表

| | | |
|-----|------------------------|-----|
| B-1 | WEBTOGO パラメータ | B-2 |
| B-2 | FILESYSTEM パラメータ | B-6 |
| B-3 | DEBUG パラメータ | B-6 |
| B-4 | PUBLIC パラメータ | B-7 |
| B-5 | SERVLET パラメータ | B-7 |
| B-6 | レプリケーション・パラメータ | B-7 |
| C-1 | パラメータの設定 | C-2 |

はじめに

このマニュアルでは、Oracle9i Lite を使用したアプリケーションのパブリッシュ、管理およびデプロイの方法に関する情報をデータベース管理者に提供します。

このマニュアルの内容は、次のとおりです。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 第1章「概要」 | Mobile サーバーを紹介し、このマニュアルの使用方法を説明します。 |
| 第2章「概念」 | Mobile サーバーの機能と用語を理解するための概念的なフレームワークを提供します。 |
| 第3章「スタート・ガイド」 | アプリケーションのパブリッシュ方法に関する概要を説明します。 |
| 第4章「Mobile サーバー・コントロール・センターの概要」 | Mobile サーバー・コントロール・センターの概要を説明します。 |
| 第5章「ユーザーの管理」 | ユーザーおよびグループの管理方法を説明します。 |
| 第6章「Mobile アプリケーションの管理」 | Mobile アプリケーションの管理方法を説明します。 |
| 第7章「Mobile サーバーの管理」 | Mobile サーバーの管理方法を説明します。 |
| 第8章「Web-to-Go サイトの管理」 | Web-to-Go サイトの管理方法を説明します。 |
| 第9章「Web-to-Go ジョブの管理」 | Web-to-Go ジョブの管理方法を説明します。 |
| 第10章「レプリケーションの管理」 | レプリケーションの管理方法を説明します。 |

| | |
|---|--|
| 付録 A 「トラブルシューティングのための FAQ」 | Mobile サーバーのトラブルシューティングについて、よくある質問とその回答を提供します。 |
| 付録 B 「Mobile サーバー構成パラメータ」 | webtogo.ora ファイルに含まれている構成パラメータを定義します。 |
| 付録 C 「init.ora での Consolidator 要件」 | init.ora における、Oracle データベースのパラメータ設定に必要な Consolidator の要件を説明します。 |
| 付録 D 「Secure Sockets Layer (SSL) のサポート」 | Mobile サーバーがサポートする Secure Sockets Layer (SSL) 通信プロトコルを説明します。 |
| 付録 E 「Mobile サーバーのスクリプト言語」 | Mobile サーバーのスクリプト言語について説明します。スクリプトを使用して、頻繁に実行する管理作業をバッチ処理できます。 |
| 付録 F 「プロキシ・サーバーのバイパス」 | プロキシ・サーバーをバイパスするようにクライアント・マシンを構成する方法を説明します。 |
| 付録 G 「外部認証」 | 外部認証について説明します。 |

1

概要

このマニュアルでは、アプリケーションのパブリッシュ、管理およびデプロイの処理について説明します。

この章では、Mobile サーバーの概要を紹介します。内容は次のとおりです。

- 1.1 項「Mobile サーバー」
- 1.2 項「概念と用語」
- 1.3 項「実装のためのチュートリアル」
- 1.4 項「詳しい実装方法」

1.1 Mobile サーバー

Mobile サーバーを使用すると、管理者は Mobile アプリケーションを様々なデバイス・プラットフォームにパブリッシュして提供し、各デバイス・プラットフォーム上で管理することができます。Mobile サーバーは、データとアプリケーションの両方を Mobile クライアントと同期します。

管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して Mobile サーバーを管理します。このツールを使用することで、管理者はユーザーを作成、削除または変更し、アプリケーションにアクセス権限を割り当て、スナップショット・テンプレート変数を設定できます。

開発者はパッケージ・ウィザードを使用してアプリケーションをパッケージ（定義）し、スナップショット定義情報を指定します。この処理には、アプリケーションの説明、アプリケーションの一部となるファイルのリスト作成、および Mobile アプリケーションに必要なスナップショット（パブリケーション項目）の作成が含まれます。この後、アプリケーションを jar ファイルに保存できます。これらの作業は、通常アプリケーションの開発者によって実行されます。アプリケーションがパッケージされると、管理者は Mobile サーバー・コントロール・センターを使用してそのアプリケーションを Mobile サーバー・リポジトリにパブリッシュできます。パッケージ・ウィザードの詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。

管理者がアプリケーションをパブリッシュすると、レプリケーション・オブジェクトが Mobile サーバー・リポジトリに自動的に作成されます。パブリケーションは、アプリケーションがサポートするプラットフォームごとに作成されます。スナップショット定義情報は開発者が指定するアプリケーション定義の一部で、jar ファイルに保存されます。

1.2 概念と用語

Oracle9i Lite を実装する前に、Oracle9i Lite の概念と用語を理解しておく必要があります。第 2 章「概念」には Oracle9i Lite の概要が説明されており、用語集には用語と定義の完全なリストが掲載されています。作業を開始する前に、この 2 つの章をよく読んでください。

1.3 実装のためのチュートリアル

Oracle9i Lite の概念と用語を理解すると、実装処理がよく理解できるようになります。実装プラットフォームとして Web-to-Go を使用する実装処理のチュートリアルは、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』の第 4 章「Web-to-Go のチュートリアル」にあります。このチュートリアルでは、簡単な Web-to-Go アプリケーションを開発して実行する過程を、順を追って説明します。

1.4 詳しい実装方法

Oracle9i Lite アプリケーションの開発および実装の概要を理解すると、Web-to-Go を例に使用して『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』の第 3 章「Web-to-Go アプリケーションの開発」の説明を読み進めることができます。この章では、Web-to-Go アプリケーションの開発およびパッケージに関する詳細な情報を提供します。さらに、このマニュアルにはサンプル・アプリケーションとトラブルシューティング情報が提供されています。

2

概念

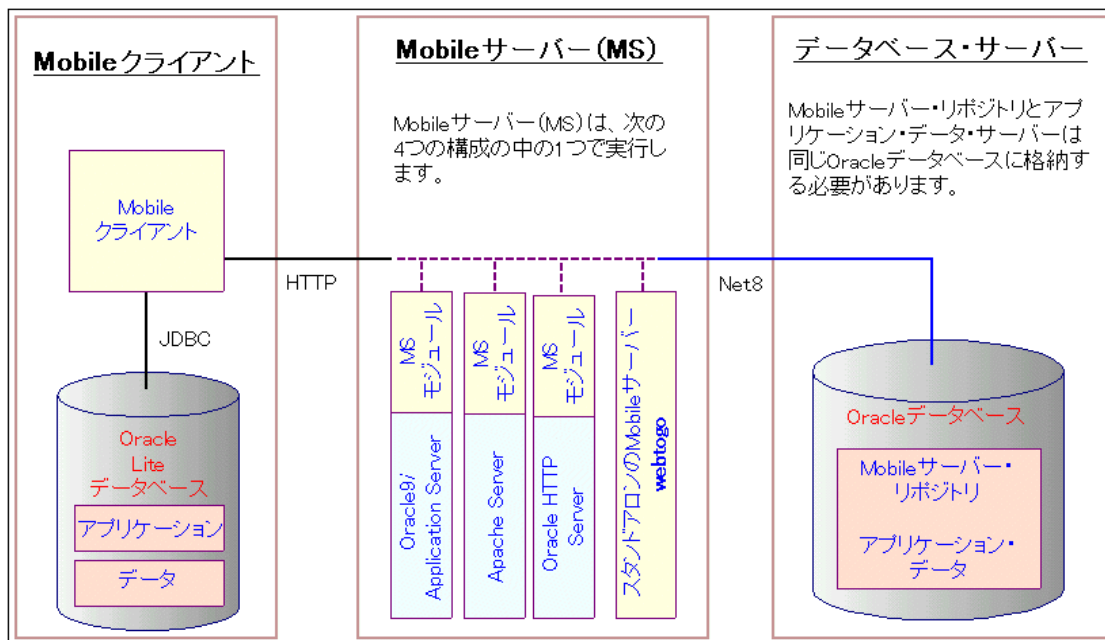
この章では、Web-to-Go の機能と用語を理解するための概念的なフレームワークを提供します。内容は次のとおりです。

- 2.1 項「Mobile サーバー環境」
- 2.2 項「同期の概念」
- 2.3 項「アクセス制御の管理」
- 2.4 項「Web-to-Go 用 Mobile クライアント・サイトの追跡」

2.1 Mobile サーバー環境

Mobile サーバー環境は、クライアント、Web アプリケーション・サーバーおよびデータベース・サーバーからなる 3 層の Web モデルです。図 2-1 に示すように、Mobile サーバー環境の 3 層アーキテクチャには Mobile クライアント (Web-to-Go 用 Mobile クライアントなど)、Mobile サーバーおよびデータベース・サーバーが含まれます。

図 2-1 Mobile サーバー環境



Mobile サーバーは中間層を構成します。データベース・サーバーは第 1 層です。Mobile サーバー・リポジトリおよびアプリケーション・データ・サーバーは、同じ Oracle データベースに格納する必要があります。

2.1.1 Mobile クライアント

Mobile クライアントの層は、Oracle Lite データベース、Mobile Sync、およびクライアント・マシンまたは次に示す互換性のあるオペレーティング・システムのいずれかを実行している携帯端末によって構成されます。

- Windows NT 4.0 SP6a、Windows 2000 または Windows 95/98
- Palm OS
- Windows CE または Pocket PC
- EPOC

Web-to-Go 用 Mobile クライアントをインストールできるのは、Windows 32 オペレーティング・システムが稼働するマシン上のみです。

Web-to-Go 用 Mobile クライアントの層は、Mobile クライアント Web サーバーおよび Oracle Lite データベースによって構成されます。Web-to-Go 用 Mobile クライアントは、Windows 32 のブラウザからアクセスできます。ブラウザは、Netscape 4.5 以上または Internet Explorer 5.0 以上のいずれかである必要があります。Internet Explorer を使用する場合は、Internet Explorer 5.5 および Internet Explorer 5.5 Service Pack 2 の使用をお勧めします。ユーザーおよび管理者は、使用するブラウザで Web Cookie を使用可能にしておく必要があります。

注意： ハードウェアおよびソフトウェア要件の詳細は、『Oracle9i Lite インストールガイド』を参照してください。

2.1.2 Mobile サーバー

アプリケーション・サーバーの層には Mobile サーバーが含まれ、ここで Mobile クライアントからの要求を処理してデータベース・サーバー内のデータをレプリケートします。Mobile サーバーは、次に示す Web アプリケーション・サーバーの 1 つとともに稼働するモジュールです。

- Oracle9i Application Server (Oracle9iAS)
- Oracle HTTP Server
- Apache Server

この他に、スタンドアロンの Mobile サーバーがあります。

2.1.3 データベース・サーバー

データベース・サーバーの層は、アプリケーション・データとアプリケーション・ファイルおよびシステム・ファイルを格納します。これらのファイルは、**Mobile** サーバー・リポジトリ (**Oracle** データベース上に常駐する仮想ファイル・システム) に格納されます。このリポジトリは、すべてのアプリケーション・ファイルとアプリケーション定義を含む永続リソース・リポジトリです。

ユーザーがアプリケーションを使用できるのは、管理者がアプリケーションをシステムにパブリッシュし、ユーザーに対してアクセス権を付与した後です。

2.2 同期の概念

様々なプラットフォームに対応する **Mobile** クライアントは、**Mobile Sync** を使用して、ローカルの **Oracle Lite** データベースと **Oracle** データベース・サーバーの間でデータ変更を同期します。

2.2.1 データ同期

データ同期の際、**Mobile** クライアントはデータ変更を **Oracle** データベースのインキューにアップロードします。次に、クライアントはアウトキューから新しい変更をダウンロードし、ローカルの **Oracle Lite** データベースにこの変更を適用します。

Consolidator Message Generator and Processor (MGP) は、キューから **Oracle** データベースに対して、設定された間隔で保留中のトランザクションを適用する **Java** バックグラウンド・プロセスです。また、**Mobile** クライアントがダウンロードする新しいデータ変更も生成します。このような変更はアウトキューに格納され、次の同期実行時に **Mobile** クライアントにより取り出されます。**Mobile** クライアントによってアップロードされたデータの変更は、**MGP** がインキューを処理してその変更を適用するまで、**Oracle** データベースには反映されません。同様に、**MGP** 実行後に発生した **Oracle** データベースの表に対する変更はアウトキューには追加されず、**Mobile** クライアントによる同期時にもダウンロードされません。

MGP が実行中でない場合でも、変更をインキューにアップロードしたり、更新をアウトキューからダウンロードできます。ただし、インキューは処理されず、アウトキューは新しい変更を受信しません。**MGP** は、**Mobile** サーバー・コントロール・センターから起動および停止できます。

2.2.2 データおよびアプリケーションの同期

ユーザーが同期を実行するときに、**Mobile** サーバーはローカルに加えられたデータ変更を **Oracle** データベースのデータ・サーバーにレプリケートします。**Oracle** データベースのデータ・サーバーに対するデータ変更は、**Mobile** クライアントの **Oracle Lite** データベース内のデータに適用されます。また、すべてのアプリケーション変更が **Mobile** クライアントにダウンロードされます。

同様に Web-to-Go でも、オンライン・モードからオフライン・モードに、またはその逆に切り替えるときにデータおよびアプリケーションが同期します。

2.3 アクセス制御の管理

Mobile サーバーは、すべてのユーザーとアプリケーションに対するサーバー側管理を提供します。管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して Mobile ユーザーおよび Mobile アプリケーションを管理します。

2.3.1 Mobile サーバー・コントロール・センター

管理者は Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、本番システムにアプリケーションをインストールできます。アプリケーションをパブリッシュすると、管理者は Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、アプリケーションのアクセス権限をユーザーに割り当てられます。

管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して個別のユーザーまたはグループにアクセス権を付与したり取り消すことにより、アプリケーションに対するアクセス制御を作成および変更できます。また、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、次のような管理作業を実行できます。

- サーバーのステータス表示
- 非同期のレプリケーション・エンジンである MGP の起動、停止およびそのステータスの検証
- サイト情報の表示

また、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、アプリケーションのプロパティを変更できます。

- アプリケーションが Web-to-Go 接続プールで管理する接続数の変更
- Oracle データベースのログイン・ユーザー名とパスワードの変更
- クライアントにダウンロードされるデータ・サブセットの決定

2.3.2 Web-to-Go ロール

Web-to-Go ロールは、Web-to-Go 内のアプリケーションでのみ指定される権限レベルです。開発者が、アプリケーションのコード内にロールを作成します。ロールは、ユーザーおよびアプリケーションの属性です。

次に例を示します。

```
role=employee
```

パッケージ・ウィザードによるアプリケーション・ロールの定義の詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。

Web-to-Go アプリケーションを Mobile サーバーにパブリッシュした後、管理者は Mobile サーバー・コントロール・センターを使用してユーザーおよびグループにロールを割り当てます。管理者はユーザーおよびユーザー・グループに対してロールを割り当てることで、ユーザーのアプリケーション・アクセス権を決定します。たとえば、サーバーに3種類のアプリケーション（アプリケーション A、B、C）があり、ユーザーは2人（Jane と John）でロールがそれぞれ異なるとします。Jane は、2つのアプリケーションに関して担当者（employee）としてのロールと開発者（developer）としてのロールをそれぞれ持っています。John は、2つのアプリケーションに関して管理者（manager）としてのロールと担当者（employee）としてのロールをそれぞれ持っています。

| アプリケーション | ロール | ユーザー |
|------------|-----------|------|
| アプリケーション A | employee | Jane |
| アプリケーション A | manager | John |
| アプリケーション B | employee | John |
| アプリケーション C | developer | Jane |

2.4 Web-to-Go 用 Mobile クライアント・サイトの追跡

Mobile クライアントは、1人以上のユーザーが使用できるラップトップまたは PC などの物理的なマシンです。Web-to-Go 用 Mobile クライアントでは、各ユーザーがディレクトリを持ちます。このディレクトリには、そのユーザーがアクセス権を持つ各アプリケーション用のデータベース・ファイルが含まれます。このディレクトリはサイトと呼ばれます。1つの Web-to-Go 用 Mobile クライアントに複数のサイトを含められますが、サイトは1人のユーザーに1つのみです。ユーザーは、異なるクライアント上に複数のサイトを所有できます。

Mobile サーバー管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用してこれらのサイトを追跡および管理できます。Mobile サーバーは、クライアントとの同期の際に自動的にサイト・プロパティを収集します。Mobile サーバー・コントロール・センターを使用すると、管理者は次のサイト・プロパティを参照できます。

| プロパティ | 説明 |
|-------|--|
| ユーザー名 | サイト・ユーザー名です。 |
| ホスト名 | サイトのホスト名です。 例: <code>host_machine.domain</code> |
| 最終モード | サイトの最終モードです。最終モードは、オンラインまたはオフラインです。 |

| プロパティ | 説明 |
|------------------------------------|--|
| 作成日 | サイトが作成された日付です。 |
| 最終同期日 | サイトが最後に同期された日付です。 |
| クライアントのオペレーティング・システム、バージョン、アーキテクチャ | Web-to-Go 用 Mobile クライアントのオペレーティング・システム、バージョンおよびアーキテクチャです。 例 : Windows NT 4.0 x86 |
| クライアントの Java バージョン | Web-to-Go 用 Mobile クライアントの Java のバージョンです。 |
| Web-to-Go のバージョン | Web-to-Go のバージョンです。 |

3

スタート・ガイド

この章に説明されている情報を使用すると、Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのパブリッシュを開始できます。データ同期を実行する前に、アプリケーションをパブリッシュする必要があります。

3.1 一般的な流れ

Web ベースのアプリケーションおよびシステム固有のアプリケーションのいずれにおいても、アプリケーションをパブリッシュする一般的な流れは次のとおりです。

1. Mobile サーバーが稼働していることを確認します。パッケージ・ウィザードを使用してアプリケーションをパッケージします。パッケージ・ウィザードの使用方法に関する手順ごとの説明は、アプリケーションが実行されるプラットフォームに対応する次のドキュメントを参照してください。
 - Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド
 - Oracle9i Lite Windows 32 開発者ガイド
 - Oracle9i Lite Windows CE 開発者ガイド
 - Oracle9i Lite Palm 開発者ガイド
 - Oracle9i Lite Developer's Guide for EPOC
2. アプリケーション表が Oracle データベースに存在していない場合は、表を作成します。第 6 章「Mobile アプリケーションの管理」の 6.2.1 項「データベース表の作成」を参照してください。
3. Mobile サーバー・コントロール・センターをオープンし、アプリケーションをパブリッシュします。第 6 章「Mobile アプリケーションの管理」の 6.2 項「Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード」を参照してください。
4. 「アプリケーション・プロパティ」ページに進みます。アプリケーション表のデータベース・パスワードを設定します。第 6 章「Mobile アプリケーションの管理」の 6.2 項「Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード」を参照してください。
5. Mobile サーバー・コントロール・センターの「セキュリティ」ページに進み、このアプリケーションをユーザーに割り当てます。第 6 章「Mobile アプリケーションの管理」の 6.7.1 項「ユーザーまたはグループに対するアプリケーション・アクセス権の付与または取消し」を参照してください。
6. Mobile サーバー・コントロール・センターの「データ・サブセッティング・パラメータ」ページに進み、各プラットフォーム上の各ユーザーにデータ・サブセッティング・パラメータを設定します（該当する場合）。第 6 章「Mobile アプリケーションの管理」の 6.8 項「データ・サブセッティング・パラメータの変更」を参照してください。
7. Message Generator and Processor (MGP) を起動します。第 7 章「Mobile サーバーの管理」の 7.6 項「Message Generator and Processor (MGP) の起動」を参照してください。

Mobile サーバー・コントロール・センターの概要

この章では、Mobile サーバー・コントロール・センターの概要について説明します。Mobile サーバー・コントロール・センターはブラウザで実行される Web ベースのアプリケーションで、これを使用すると Mobile アプリケーションの管理が容易になります。

この章の内容は、次のとおりです。

- [4.1 項「ログオン」](#)
- [4.2 項「Mobile サーバー・コントロール・センターの概要」](#)
- [4.3 項「Mobile サーバーの管理タスク」](#)

4.1 ログオン

Mobile アプリケーションを管理するには、システム管理者として Mobile サーバー・コントロール・センターにログオンします。図 4-1 に示すように、「ログオン」ページにユーザー名「administrator」とパスワード「admin」を入力し、「ログオン」をクリックします。

図 4-1 Mobile サーバー・コントロール・センターの Web ページへのログオン

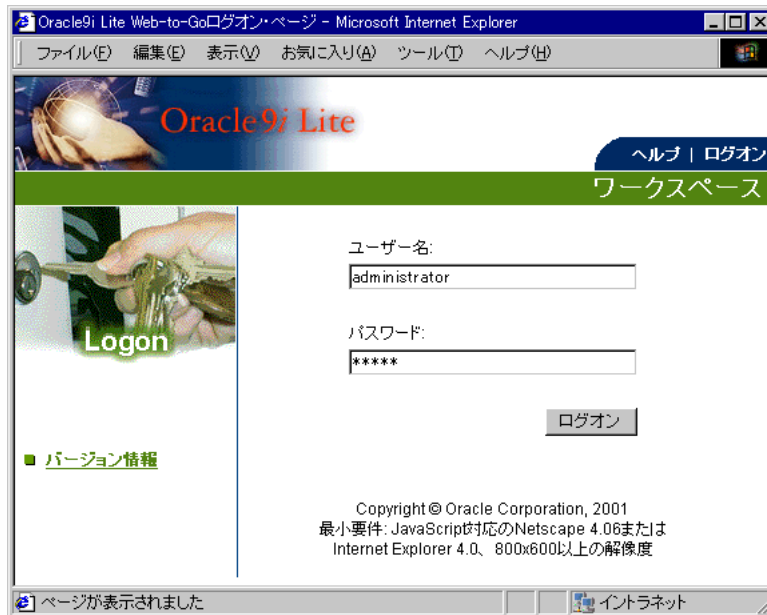


図 4-2 に示すように、「コントロール・センター」アイコンの付いたワークスペースの web ページが表示されます。「コントロール・センター」アイコンまたは「コントロール・センター」リンクをクリックします。

図 4-2 Mobile サーバー・コントロール・センターのリンク

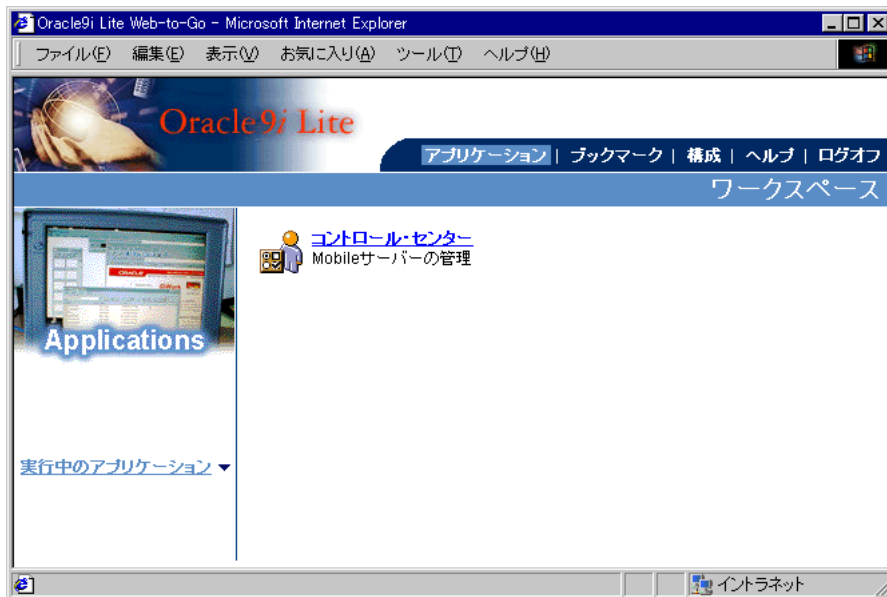
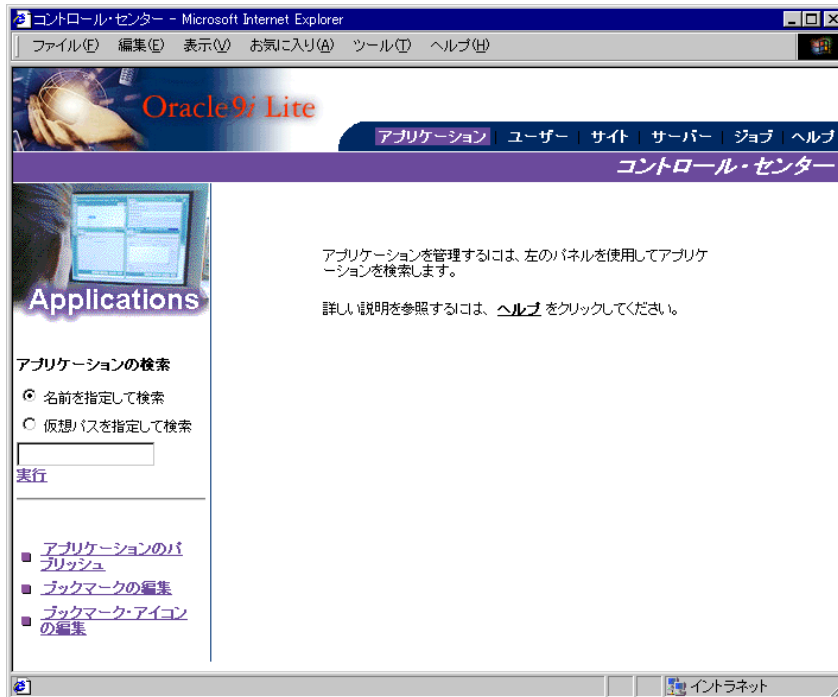


図 4-3 に示すように、Mobile サーバー・コントロール・センターが表示されます。

図 4-3 Mobile サーバー・コントロール・センター



4.2 Mobile サーバー・コントロール・センターの概要

図 4-3 に示すとおり、Mobile サーバー・コントロール・センターは、上部フレーム（機能タブ）、左のフレーム（検索オプション）および右のフレーム（管理タスク）に分かれています。上部フレームには、次の機能タブが含まれています。

- アプリケーション
- ユーザー
- サイト
- サーバー
- ジョブ
- ヘルプ

機能タブ

機能タブは常に表示されているタブで、ここから管理タスクを実行したり、ヘルプ・ドキュメントにアクセスできます。上部フレームには、選択するタブに応じて、タブごとに色の異なるバーも含まれています。「ヘルプ」タブからはヘルプ・ドキュメントのブラウザ・ウィンドウが別に起動されます。

検索オプション

左のフレームには、選択するタブに応じて、次の検索オプションが含まれます。

- アプリケーション名
- アプリケーションの仮想パス
- ユーザー
- ユーザー・グループ
- サイトのホスト名
- サイトのユーザー名
- サイトのオフライン日数

検索フィールドに何も指定しないと、全ユーザー、全ユーザー・グループまたは全アプリケーションを検索できます。サイトは、ホスト名またはユーザー名ごとに検索できます。簡単にナビゲートできるように、左のフレームの上部にある図形で、現在選択されているタブが表示されます。

管理タスク—右のフレーム

図 4-3 に示すように、左のパネルを使用して管理するアプリケーションを検索できます。アプリケーションは、名前または仮想パスによって検索できます。右のフレームには、実行した検索または変更の結果が表示されます。Web-to-Go 管理タスクを実行することもできます。

4.3 Mobile サーバーの管理タスク

Mobile サーバー・コントロール・センターの機能タブで、Mobile サーバーの管理タスクを実行できます。必要な Mobile サーバー管理タスクを実行するには、該当する機能タブをクリックします。

「アプリケーション」タブ

「アプリケーション」タブは次の目的に使用します。

- ユーザーまたはグループに対するアプリケーション・アクセス権の付与または取消し
- ユーザーに対する Mobile サーバー・ロールの付与または取消し
- グループ・レベル・アクセスでのユーザーの包含と除外
- グループに対するアプリケーション・ロールの付与または取消し
- パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択
- データ・サブセッティング・パラメータの変更
- レジストリ・エントリの変更
- アプリケーション・プロパティの変更
- Mobile サーバーからのアプリケーションの削除
- アプリケーションの一時停止
- アプリケーションの再開
- Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード
- システム・ブックマークの作成

「ユーザー」タブ

「ユーザー」タブは次の目的に使用します。

- ユーザーの作成
- ユーザーの変更または削除
- グループの作成
- グループの変更または削除

「サイト」タブ

「サイト」タブは次の目的に使用します。

- サイト詳細のリスト
- サイト詳細の表示
- Mobile サーバーからのサイトの消去

「サーバー」タブ

「サーバー」タブは次の目的に使用します。

- サーバーのシステム・ステータス・レポートの表示
- サーバーの一時停止
- サーバーの再開
- MGP の起動
- MGP の停止

「ジョブ」タブ

「ジョブ」タブは次の目的に使用します。

- データ同期ジョブのスケジュールの表示
- 新しいデータ同期ジョブの作成
- データ同期ジョブの編集
- データ同期ジョブの削除

「ヘルプ」タブ

「ヘルプ」タブは、状況依存ヘルプを表示します。

5

ユーザーの管理

この章では、**Mobile** サーバー・コントロール・センターを使用したユーザーの管理方法について説明します。内容は、次のとおりです。

- 5.1 項「ユーザーおよびユーザー・グループのリスト」
- 5.2 項「ユーザーの作成」
- 5.3 項「ユーザーの変更または削除」
- 5.4 項「グループの作成」
- 5.5 項「グループの変更または削除」

5.1 ユーザーおよびユーザー・グループのリスト

ユーザーのリストを表示するには、「ユーザー」タブをクリックしてから「ユーザー」を選択します。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。検索条件に一致するフルネームまたはユーザー名を持つユーザーのリストが、右のフレームに表示されます。

ユーザーのリストからは、1人以上のユーザーを簡単に削除できます。削除するユーザーの「削除」列にあるチェックボックスを選択して「削除」をクリックします。これで、選択したユーザーがシステムから完全に削除されます。

ユーザー・グループのリストを表示するには、「ユーザー」タブをクリックしてから「ユーザー・グループ」を選択します。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。検索条件に一致するグループ名を持つユーザーのリストが、右のフレームに表示されます。

5.2 ユーザーの作成

Mobile サーバーの新規ユーザーを作成できます。ユーザーを作成するには「ユーザー」タブをクリックしてから、Mobile サーバー・コントロール・センターの左のフレームにある「ユーザーの作成」をクリックします。図 5-1 に示すように、次の各フィールドが右のフレームに表示されます。

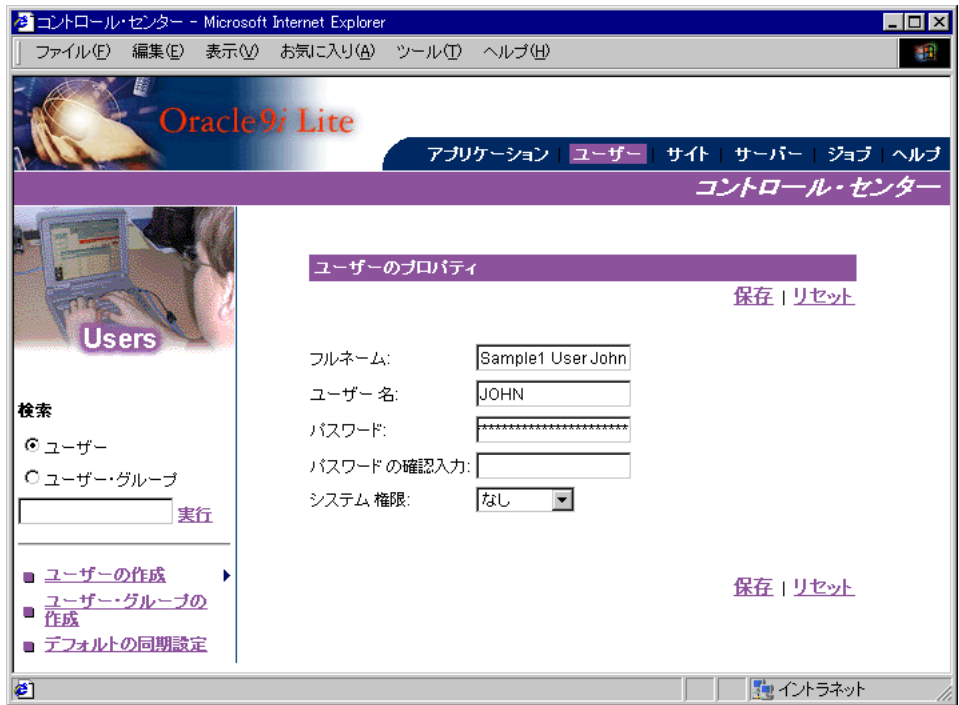
| フィールド | 説明 | 必須 |
|------------|--|-----------------------|
| フルネーム | Mobile サーバー・ユーザーの一意のフルネームです。 | <input type="radio"/> |
| ユーザー名 | ユーザーが Mobile サーバー・セッションを開始するために入力する Mobile サーバー・ログオン名です。 | <input type="radio"/> |
| パスワード | ユーザーのパスワードです。パスワードには、Oracle データベース・キャラクタ・セットのシングルバイト文字しか指定できません（キャラクタ・セットにマルチバイト文字が含まれている場合も同様です）。 | <input type="radio"/> |
| パスワードの確認入力 | ユーザーのパスワードです。 | <input type="radio"/> |

| フィールド | 説明 | 必須 |
|--------|---|----|
| システム権限 | <p>ユーザーが使用できる Mobile サーバー権限のドロップダウン・リスト・ボックスです。各ユーザーに割り当てるシステム権限を次の中から1つのみ選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Connect ユーザーは Mobile サーバーに接続できます。 ■ Admin ユーザーは Mobile サーバー・リソースを変更できます。 ■ Publish ユーザーはアプリケーションをパブリッシュできます。 ■ なし ユーザーに権限が与えられません。 | ○ |

必須情報を入力し「保存」をクリックします。Mobile サーバー・コントロール・センターは、ユーザーのサイトなど保存済みの情報を表示します。ユーザーにまだサイトがない場合、Mobile サーバー・コントロール・センターは、Web-to-Go サイトが見つからなかったというメッセージを表示します。

注意： ユーザー名として使用できるのはシングルバイト文字のみで、文字「\」、「/」、「\」、 「@」または「%」は含められません。

図 5-1 ユーザーの作成



5.3 ユーザーの変更または削除

ユーザーを変更または削除するには、「ユーザー」タブをクリックします。左のフレームの「ユーザー」を選択します。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにユーザーのリストが表示されます。変更または削除するユーザーをクリックします。図 5-2 に示すように、そのユーザーの情報が次のフィールドに表示されます。

| フィールド | 説明 | 必須 |
|------------|---|-----------------------|
| フルネーム | Mobile サーバー・ユーザーの一意のフルネームです。 | <input type="radio"/> |
| ユーザー名 | ユーザーが Mobile サーバー・セッションを開始するために入力する Mobile サーバー・ログオン名です。 | <input type="radio"/> |
| パスワード | ユーザーのパスワードです。パスワードには、Oracle データベース・キャラクタ・セットのシングルバイト文字しか指定できません（キャラクタ・セットにマルチバイト文字が含まれている場合も同様です）。 | <input type="radio"/> |
| パスワードの確認入力 | ユーザーのパスワードです。 | <input type="radio"/> |
| システム権限 | ユーザーが使用できる Web-to-Go 権限のドロップダウン・リスト・ボックスです。各ユーザーに割り当てるシステム権限を次の中から 1 つのみ選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Connect ユーザーは Mobile サーバーに接続できます。 ■ Admin ユーザーは Mobile サーバー・リソースを変更できます。 ■ Publish ユーザーはアプリケーションをパブリッシュできます。 ■ なし ユーザーに権限が与えられません。 | <input type="radio"/> |
| 強制リフレッシュ | ユーザーの特定のプラットフォームを、完全リフレッシュとしてマークします。プラットフォームを強制リフレッシュに指定すると、そのユーザーのすべてのデータが、次の同期時にターゲット・プラットフォームで完全にリフレッシュされます。Mobile サーバーの管理者は、すべてのプラットフォームに対して、またはプラットフォームごとに強制リフレッシュを指定できます。 | |

注意：「名前」または「フルネーム」ラベルをクリックすると、ユーザーのリストを名前またはフルネームごとにソートできます。

図 5-2 ユーザーの変更または削除



ユーザーの変更

ユーザーを変更するには、前述のフィールドのいずれかを変更して「保存」をクリックします。ユーザーのパスワードを変更した場合は、「パスワードの確認入力」フィールドも同様に変更する必要があります。

ユーザーの削除

Mobile サーバーからユーザーを削除するには、「削除」をクリックします。ユーザーを削除すると、Mobile サーバーはこのユーザーに対するアプリケーション、スナップショット・テンプレート変数およびレジストリ変数への参照をすべて削除します。

注意： ユーザーのシステム権限を「なし」に設定すると、このユーザーは Web-to-Go を使用できません。これによりこのユーザーはシステムに接続できなくなりますが、アクセス・コントロール・リストとユーザー・グループにはこのユーザーの情報がそのまま残ります。

ユーザー・サイトの表示

ユーザー・サイトは、「Web-to-Go サイト」の下にリストされます。選択したユーザー・サイトの特定の情報を参照するには、「詳細」をクリックします。選択したユーザー・サイトに関する情報が表示されます (図 5-3)。

図 5-3 ユーザー・サイトの表示



ワークスペースには、次の情報が表示されます。

| 項目 | 定義 |
|------------------|---|
| ホスト名 | サイトのホスト名です。 例: <i>host.domain</i> |
| オペレーティング・システム | Web-to-Go 用 Mobile クライアントのオペレーティング・システム、バージョンおよびアーキテクチャです。 例: Windows NT 4.0 x86 |
| Java ランタイム環境 | Java ランタイム環境 (JRE) です。たとえば、次のとおりです。 1.2.2 |
| Web-to-Go のバージョン | Web-to-Go のバージョンです。 |

右のフレームには、次のユーザー情報も表示されます。

| 項目 | 定義 |
|----------|-------------------------------------|
| ユーザー | サイト・ユーザー名です。 |
| モード | サイトの最終モードです。最終モードは、オンラインまたはオフラインです。 |
| 作成日 | サイトが作成された日付および時刻です。 |
| 最終リフレッシュ | サイトが最後に同期された日付および時刻です。 |
| 前回ログオン | ユーザーが前回ログオンした日付および時刻です。 |

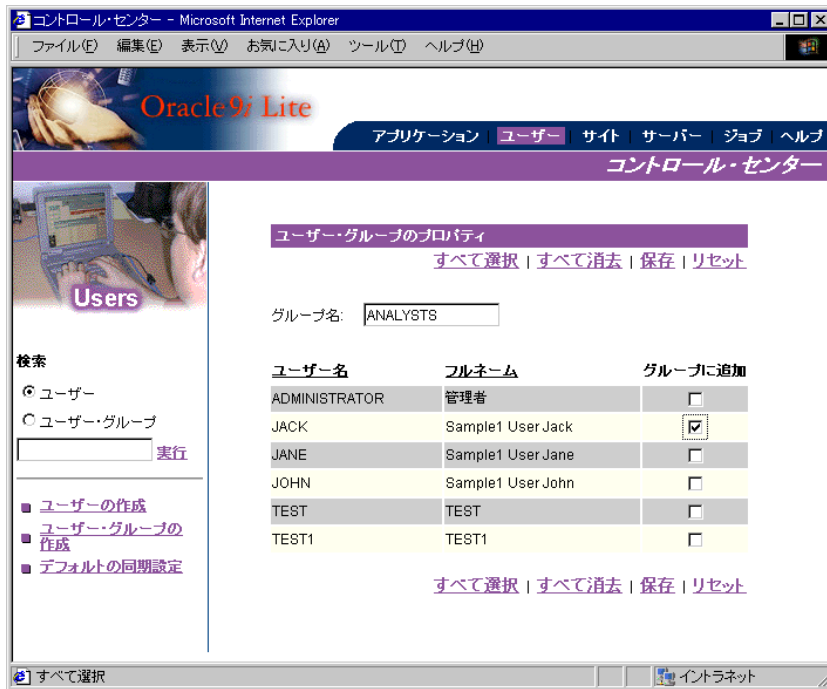
5.4 グループの作成

グループを作成すると、複数ユーザーからの Mobile サーバー・アプリケーションへのアクセスを同時に制御できます。グループを作成するには「ユーザー」タブをクリックしてから、Mobile サーバー・コントロール・センターの左のフレームにある「ユーザー・グループの作成」をクリックします。次の要素が右のフレームに表示されます。

| 要素 | 説明 | 必須 |
|----------------------------|--|-----------------------|
| グループ名 | グループの名前です。 | <input type="radio"/> |
| システム内の各ユーザーごとに次の項目が表示されます。 | | |
| ユーザー名 | ユーザーの名前です。 | |
| フルネーム | 姓と名を含むユーザーのフルネームです。 | |
| グループに追加 | このチェックボックスが選択されていると、ユーザーはグループに含まれています。 | |

図 5-4 に示すように、「グループ名」フィールドに新規グループの名前を入力します。グループに含めるユーザーの隣にあるチェックボックスを選択し、「保存」をクリックします。使用可能ユーザーをすべてグループに含めるには、「すべて選択」をクリックしてから「保存」をクリックします。

図 5-4 グループの作成



5.5 グループの変更または削除

グループを変更または削除するには「ユーザー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「ユーザー・グループ」をクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにグループのリストが表示されます。変更または削除するグループをクリックします。図 5-5 に示すように、そのグループの情報が次のフィールドに表示されます。

| 要素 | 説明 | 必須 |
|----------------------------|---|-----------------------|
| グループ名 | グループの名前です。 | <input type="radio"/> |
| システム内の各ユーザーごとに次の項目が表示されます。 | | |
| ユーザー名 | ユーザーの名前です。 | |
| フルネーム | 姓と名を含むユーザーのフルネームです。 | |
| グループに追加 | このチェックボックスが選択されていると、ユーザーはグループに含まれています。このチェックボックスが選択されていない場合、ユーザーはグループに含まれていません。 | |

グループへのユーザーの追加

グループにユーザーを追加するには、追加するユーザーの隣にある「グループに追加」チェックボックスを選択し、「保存」をクリックします。

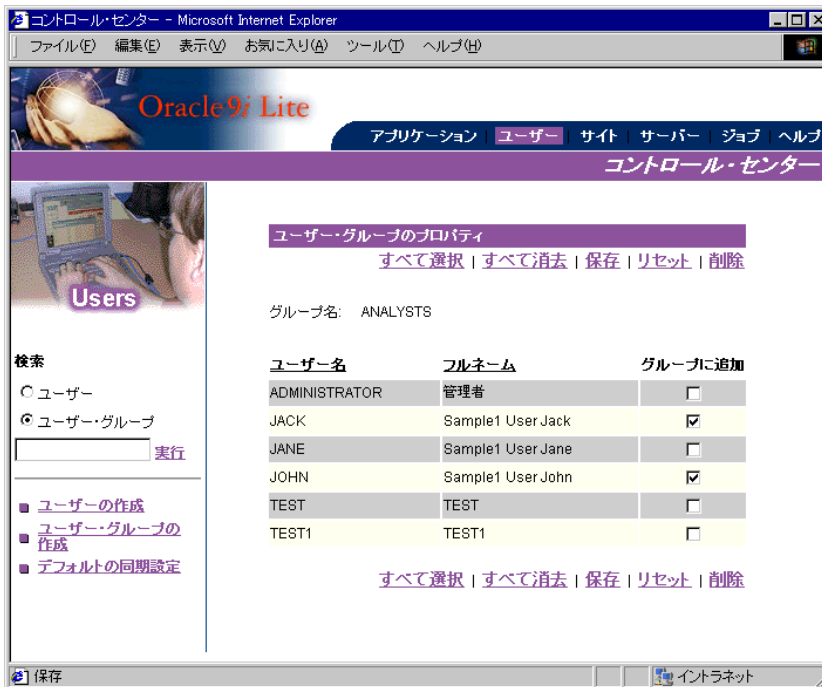
グループからのユーザーの削除

グループからユーザーを削除するには、削除するユーザーの隣にある「グループに追加」チェックボックスの選択を解除します。「保存」をクリックします。

グループの削除

Web-to-Go からグループを削除するには、「削除」をクリックします。グループを削除すると、Web-to-Go サーバーはこのグループからのアプリケーションへの参照をすべて削除します。

図 5-5 グループの変更または削除



Mobile アプリケーションの管理

この章では、Mobile アプリケーションの管理方法について説明します。内容は、次のとおりです。

- 6.1 項「アプリケーションのリスト表示」
- 6.2 項「Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード」
- 6.3 項「アプリケーション・プロパティの変更」
- 6.4 項「Mobile サーバーからのアプリケーションの削除」
- 6.5 項「アプリケーションの一時停止」
- 6.6 項「アプリケーションの再開」
- 6.7 項「セキュリティ」
- 6.8 項「データ・サブセッティング・パラメータの変更」
- 6.9 項「レジストリ・エントリの変更」
- 6.10 項「パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択」
- 6.11 項「システム・ブックマークの作成」

6.1 アプリケーションのリスト表示

アプリケーションのリストを表示するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。検索条件に一致する仮想パスまたはアプリケーション名を持つアプリケーションのリストが、右のフレームに表示されます。

6.2 Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード

アプリケーションを作成し、パッケージ・ウィザードを使用してローカル・ディレクトリにパブリッシュした後は、次の手順に従って Oracle データベース・サーバー上の Mobile サーバー・リポジトリにアプリケーションをアップロードできます。


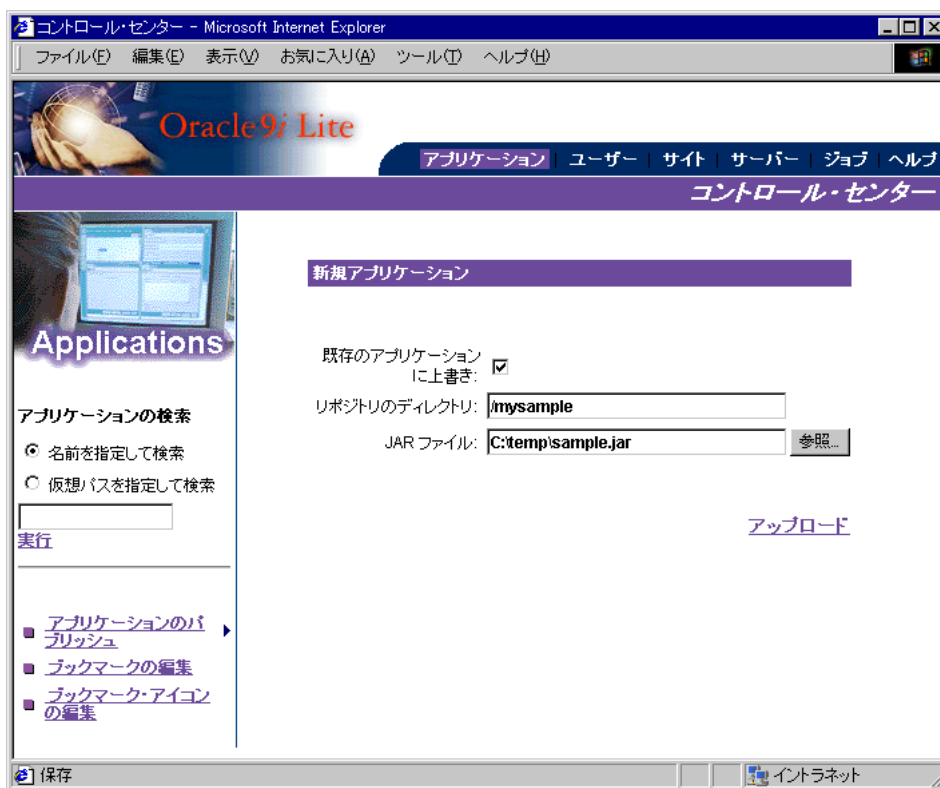
1. 「アプリケーション」パネルの左のフレームにある「アプリケーションのパブリッシュ」をクリックします。右のフレームに「リポジトリのディレクトリ」および「JAR ファイル」フィールドが表示されます。
2.  6-1 に示すように、「リポジトリのディレクトリ」フィールドには Mobile サーバー・リポジトリのアプリケーション・ファイルを配置するディレクトリ名（たとえば、*mysample*）を入力します。このフィールドに入力しない場合、Mobile サーバーはアプリケーションの仮想パスの値を使用してディレクトリを作成します。
3. 「JAR ファイル」フィールドに、アップロードする **.jar** ファイルの名前を入力するか（たとえば、*sample1*）、「参照」ボタンを使用してローカル・ディスクからファイルを見つけます。
4. リポジトリ内の同一の仮想パスを持つ既存のアプリケーションを上書きする場合は、「既存のアプリケーションに上書き」をクリックします。
5. 「アップロード」をクリックして、アプリケーションを Mobile サーバー・リポジトリにパブリッシュします。

図 6-1 Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード



6.2.1 データベース表の作成

SQL コマンドの CREATE TABLE を使用すると、Oracle データベースにレプリケーション用の表を作成できます。SQL*Plus を使用しても、作成できます。更新可能スナップショットに使用されるすべての表に、PRIMARY KEY 制約が必要です。

アプリケーションをパブリッシュする前に、レコードをすべてデータベースに挿入しておくことをお勧めします。

6.3 アプリケーション・プロパティの変更

Mobile アプリケーションのプロパティ（アプリケーションの名前、説明、データベースへの接続など）は変更できます。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

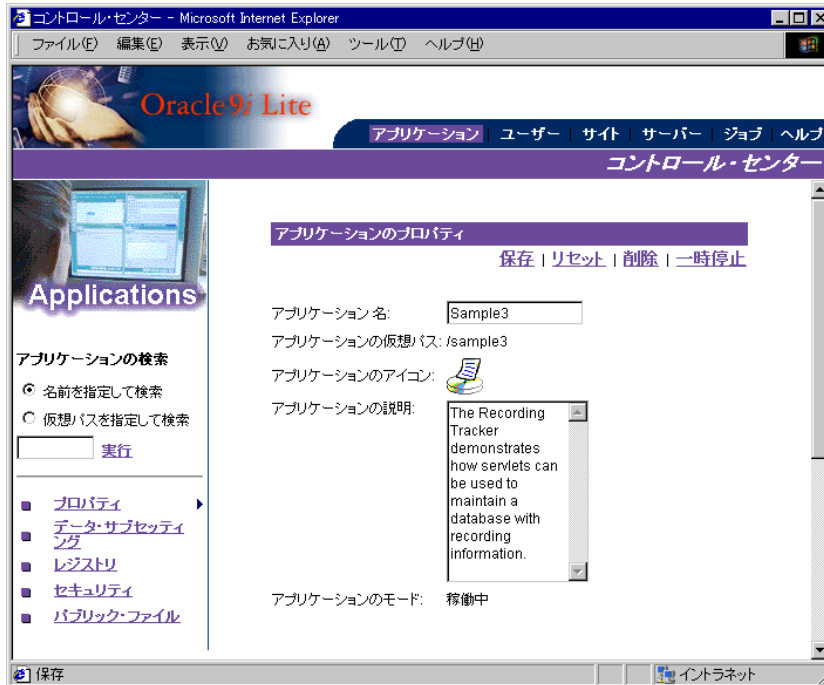
- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「プロパティ」をクリックします。次の情報が右のフレームに表示されます。

| フィールド | 説明 | 必須 |
|---------------|---|-----------------------|
| アプリケーション名 | アプリケーションの名前です。 | <input type="radio"/> |
| アプリケーションの仮想パス | アプリケーションの仮想パスです。これは変更できません。 | <input type="radio"/> |
| アプリケーション・アイコン | ワークスペースに表示されるアプリケーションのアイコンです。これは変更できません。 | <input type="radio"/> |
| アプリケーションの説明 | アプリケーションの説明です。 | <input type="radio"/> |
| アプリケーションのモード | このアプリケーションが実行中か一時停止中かを示します。 | |
| 最大データベース接続数 | アプリケーションがサポートする Oracle データベースへの接続数です。 | <input type="radio"/> |
| 共有接続 | これを選択すると、アプリケーションの接続ユーザー間でデータベース接続を共有できます。選択しない場合、ユーザーはアプリケーションに現在割り当てられている接続ごとに 5 秒間待機する必要があります。 | |
| データベース・ユーザー名 | アプリケーションが Oracle データベースへの接続に使用するユーザー名です。 | <input type="radio"/> |
| データベース・パスワード | アプリケーションが Oracle データベースへの接続に使用するパスワードです。 | <input type="radio"/> |

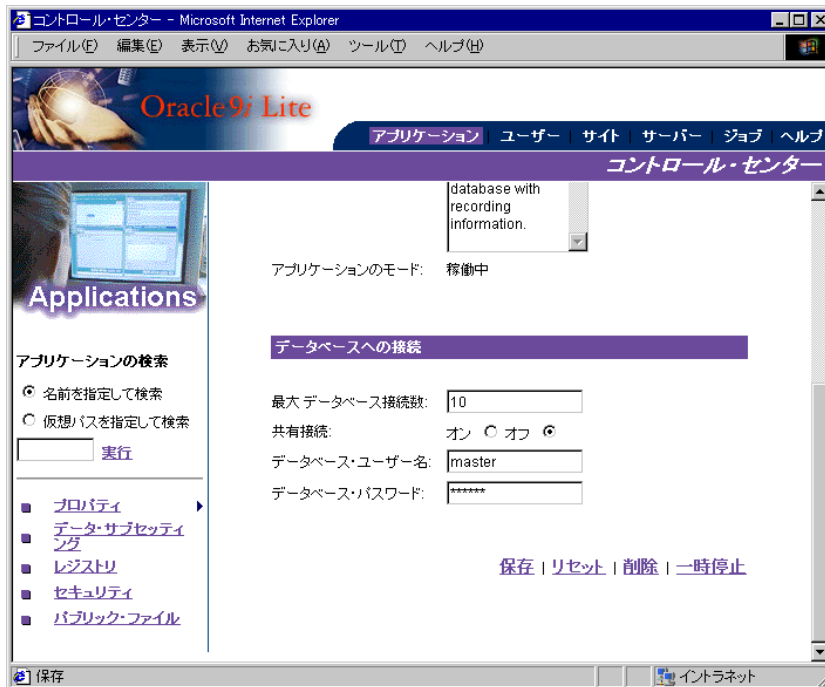
図 6-2 および図 6-3 に示すように、アプリケーションの名前、説明、データベース接続情報を変更するには、必要なフィールドに情報を入力して「保存」をクリックします。

図 6-2 アプリケーション・プロパティの変更



アプリケーションの接続を他の Mobile アプリケーションと共有するには、「共有接続」の「オン」ボタンをクリックし「保存」をクリックします。

図 6-3 データベース接続情報の変更



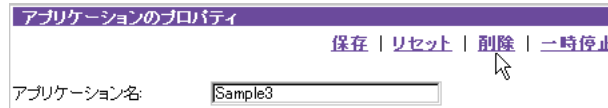
6.4 Mobile サーバーからのアプリケーションの削除

Mobile サーバーからアプリケーションのリソースとプロパティを削除するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。削除するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「プロパティ」をクリックします。図 6-4 に示すように、右のフレームの下部までスクロールし、「削除」をクリックします。これで Mobile サーバーからアプリケーションが削除されます。

図 6-4 アプリケーションの削除



Mobile サーバーからアプリケーションを削除しても、アプリケーションのファイルとサブレットは Mobile サーバー・システムからは削除されません。Mobile サーバー・アプリケーションへのアクセス権のある最後のユーザーが Mobile サーバーからログオフするまで、アプリケーションのサブレットはロードされたまま残ります。最後のユーザーが Mobile サーバーからログオフした後、システム管理者は Mobile サーバー・シェル・ユーティリティを使用してアプリケーション・ファイルをすべて削除できます。

6.5 アプリケーションの一時停止

保守目的で Mobile アプリケーションを一時停止するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。アプリケーションを一時停止すると、すべてのユーザーがオンライン・モードでアプリケーションにアクセスできません。すべてのユーザーはオフライン・モードでアプリケーションにアクセスできます。Mobile アプリケーションを一時停止するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。一時停止するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「プロパティ」をクリックします。図 6-5 に示すように、「一時停止」をクリックします。警告ダイアログ・ボックスが表示され、続いて確認ダイアログ・ボックスが表示されます。アプリケーション・モードが「一時停止」に変更されます。「一時停止」が「再開」に置き換わります。

図 6-5 アプリケーションの一時停止



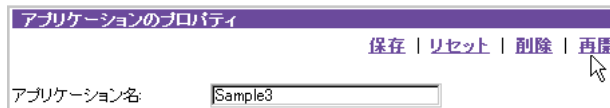
6.6 アプリケーションの再開

一時停止されているアプリケーションを再開するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。再開するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「プロパティ」をクリックします。「再開」をクリックします。これでアプリケーションが標準操作に戻り、必要な場合はオフラインにすることもできます。アプリケーション・モードが「実行中」に変更されます。「再開」が「一時停止」に置き換わります。

図 6-6 アプリケーションの再開



6.7 セキュリティ

ここでは、コントロール・センターのセキュリティ機能を説明します。

6.7.1 ユーザーまたはグループに対するアプリケーション・アクセス権の付与または取消し

Mobile サーバー・コントロール・センターでは、特定のアプリケーションに対してユーザーまたはグループのアクセス権を付与または取り消すことができます。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「セキュリティ」をクリックします。図 6-7 に示すように、ユーザーおよびグループのリストが表示されます。

ユーザーに対するアプリケーション・アクセス権の付与

ユーザーにアプリケーション・アクセス権を付与するには、「ユーザー・ベース・アクセス」リスト内のユーザーの隣にある「アクセス」チェックボックスをクリックしてから「保存」をクリックします。リスト内の全ユーザーにアクセス権を付与するには、「すべて選択」をクリックしてから「保存」をクリックします。

ユーザーのアプリケーション・アクセス権の取消し

ユーザーのアプリケーション・アクセス権を取り消すには、ユーザーの隣にある「アクセス」チェックボックスの選択を解除してから「保存」をクリックします。

グループに対するアプリケーション・アクセス権の付与

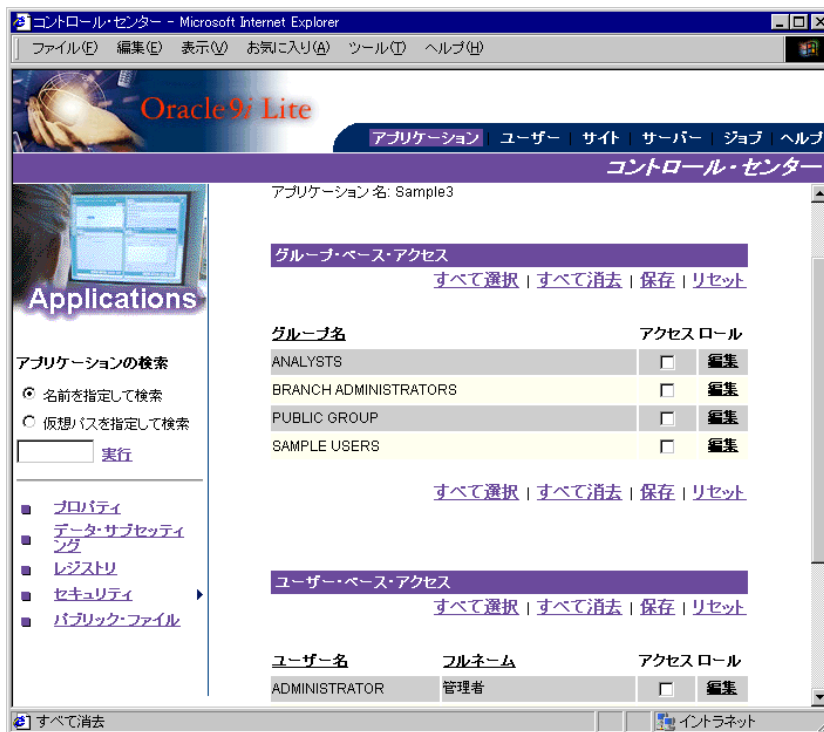
グループにアプリケーション・アクセス権を付与するには、「グループ・ベース・アクセス」リスト内のグループの隣にある「アクセス」チェックボックスをクリックしてから「保存」をクリックします。リスト内の全グループにアクセス権を付与するには、「すべて選択」をクリックしてから「保存」をクリックします。

グループのアプリケーション・アクセス権の取消し

グループのアプリケーション・アクセス権を取り消すには、「アクセス」チェックボックスの選択を解除してから「保存」をクリックします。

注意： グループ全体にアプリケーションへのアクセス権を付与すると、そのグループ内の各ユーザーにアプリケーションへのアクセス権が付与されます。ただし、特定のユーザーがアプリケーションにアクセスしないように、グループからユーザーを削除せずに除外できます。詳細は、6.7.2 項「グループ・レベル・アクセスでのユーザーの包含と除外」を参照してください。

図 6-7 アプリケーション・アクセス権の付与または取消し



6.7.2 グループ・レベル・アクセスでのユーザーの包含と除外

ユーザーを包含または除外することにより、アプリケーションへのグループ・レベルのアクセス権を変更できます。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「セキュリティ」をクリックします。右のフレームにユーザーおよびグループのリストが表示されます。

グループ・レベル・アクセスへのユーザーの包含

グループ内のユーザーにアクセス権を付与するには、次の操作が必要です。

1. 各グループに対応する「編集」リンク（グループと同じ行にある「編集」リンク）をクリックします。
2. 次のページで、「グループ・ユーザーへのアプリケーション・アクセス権の付与」のユーザーの隣の「使用可能」チェックボックスをクリックします。

グループ・レベル・アクセスからのユーザーの除外

グループ内のユーザーのアプリケーション・アクセス権を取り消すには、次の操作が必要です。

1. 各グループに対応する「編集」リンク（グループと同じ行にある「編集」リンク）をクリックします。
2. 次のページで、「グループ・ユーザーへのアプリケーション・アクセス権の付与」のユーザーの隣の「使用可能」チェックボックスの選択を削除します。

6.7.3 ユーザーに対する Web-to-Go ロールの付与または取消し

Web-to-Go ロールの作成方法の詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。

ユーザーまたはグループに Mobile サーバー・ロールに対するアクセス権を付与または取り消すには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「セキュリティ」をクリックします。ユーザーおよびグループのリストが表示されます。

ユーザーへのロールの付与

ユーザーにロールを付与するには、画面の「ユーザー・ベース・アクセス」セクションにある、ユーザー名の隣の「編集」リンクをクリックします。そのユーザーが使用可能なロールのリストが表示されます。

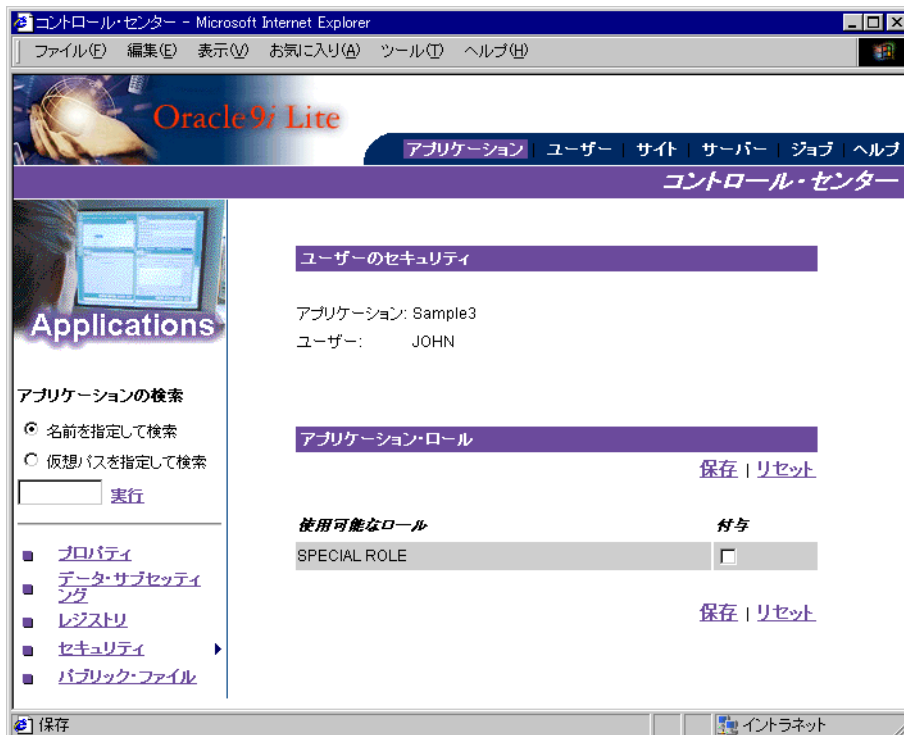
注意： ユーザーの使用可能ロールのリストにアクセスできるのは、そのユーザーにアプリケーション・アクセス権が付与されている場合のみです。ユーザーにアプリケーション・アクセス権がない場合は、「編集」リンクをクリックすると Mobile サーバー・コントロール・センターがエラー・メッセージを返します。

ユーザーに付与するロールの隣の「付与」チェックボックスを選択します。「保存」をクリックします。

ユーザーのロールの取消し

図 6-8 に示すように、ユーザーのロールを取り消すには、ロールの隣にあるチェックボックスの選択を解除します。「保存」をクリックします。

図 6-8 ユーザーのロールの取消し



6.7.4 グループに対するアプリケーション・ロールの付与または取消し

アプリケーションのグループにロールを付与または取り消すことにより、アプリケーションのグループを変更できます。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「セキュリティ」をクリックします。右のフレームにユーザーおよびグループのリストが表示されます。

グループへのロールの付与

グループにロールを付与するには、グループ名の隣の「編集」リンクをクリックします。そのグループが使用可能なロールのリストが表示されます。

注意： グループの使用可能ロールのリストにアクセスできるのは、そのグループにアプリケーション・アクセス権が付与されている場合のみです。グループにアプリケーション・アクセス権がない場合は、「編集」リンクをクリックすると Mobile サーバー・コントロール・センターがエラー・メッセージを返します。

グループに付与するロールの隣の「付与」チェックボックスを選択します。「保存」をクリックします。

グループのロールの取消し

グループのロールを取り消すには、ロールの隣にあるチェックボックスの選択を削除します。「保存」をクリックします。

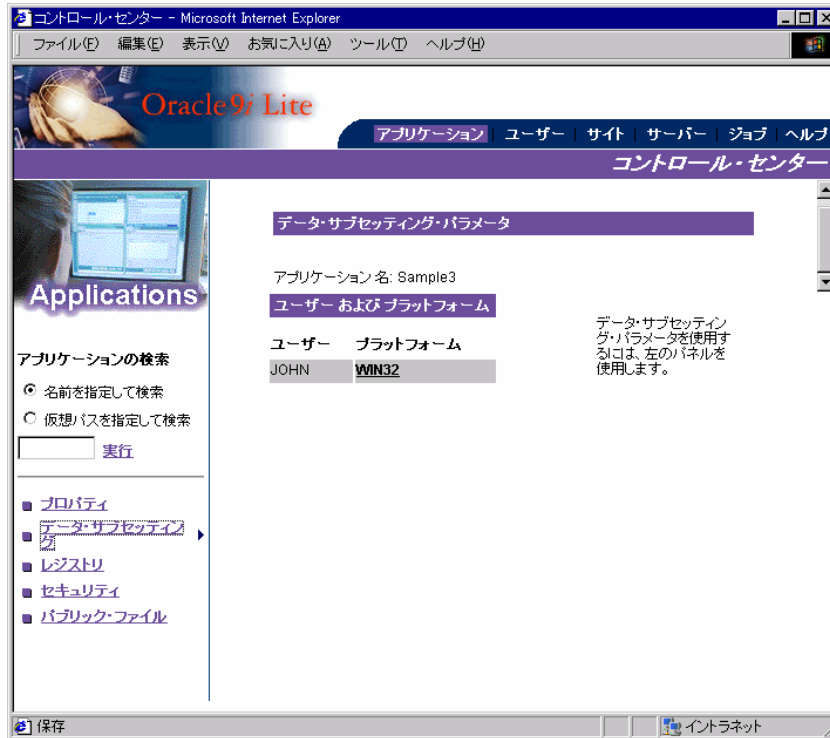
6.8 データ・サブセッティング・パラメータの変更

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用すると、管理者は Mobile アプリケーションの中でデータ・サブセッティング・パラメータを参照および編集できます。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。参照または変更するデータ・サブセッティング・パラメータを含むアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「データ・サブセッティング」をクリックします。右のフレームにユーザーとそれぞれに対応付けられているプラットフォームのリストが表示されます (図 6-9)。

図 6-9 データ・サブセッティング・パラメータの変更



あるユーザー（たとえば、JOHN）のデータ・サブセッティング・パラメータを参照するには、ユーザーの隣の「プラットフォーム」をクリックします。Mobile サーバー・コントロール・センターによって、アプリケーション名、ユーザー名、プラットフォーム名および値に関する情報が表示されます（図 6-10）。

図 6-10 データ・サブセッティング・パラメータの参照

The screenshot shows the Oracle 9i Lite Control Center web interface in Microsoft Internet Explorer. The page title is "コントロール・センター - Microsoft Internet Explorer". The main content area is titled "Oracle 9i Lite" and "コントロール・センター". The navigation menu includes "アプリケーション", "ユーザー", "サイト", "サーバー", "ジョブ", and "ヘルプ".

The "データ・サブセッティング・パラメータ" section displays the following information:

- アプリケーション名: Sample3
- ユーザー および プラットフォーム: **選択済 ユーザー**
- ユーザー: JOHN
- プラットフォーム: **WIN32**
- ユーザー名: JOHN
- プラットフォーム名: WIN32

Below this information, there is a "データサブセッティングパラメータ" section with a "名前" (Name) and "値" (Value) table:

| 名前 | 値 |
|-------|------|
| CODE: | 1111 |

Buttons for "保存 | リセット" (Save | Reset) are present below the table.

The left sidebar contains "Applications" and "アプリケーションの検索" (Search Applications) with options for "名前を指定して検索" (Search by name) and "仮想パスを指定して検索" (Search by virtual path). A list of application categories is shown, including "プロパティ", "データ・サブセッティング", "レジストリ", "セキュリティ", and "パブリック・ファイル".

次の表で、表示される要素を説明します。

| 要素 | 説明 | 必須 |
|-----------|--|-----------------------|
| アプリケーション名 | アプリケーション名です。これは変更できません。 | |
| ユーザー名 | 選択されたユーザーのユーザー名です。これは変更できません。 | |
| プラットフォーム名 | パッケージ・ウィザードで指定されたスナップショットのプラットフォームです。これは変更できません。 | |
| 名前 | Mobile アプリケーションのパラメータの名前です。これは変更できません。 | <input type="radio"/> |
| 値 | Mobile アプリケーションのパラメータの値です。 | <input type="radio"/> |

パラメータの値を入力して「保存」をクリックします。「リセット」をクリックすると、「値」フィールドの値が元の状態に戻ります。

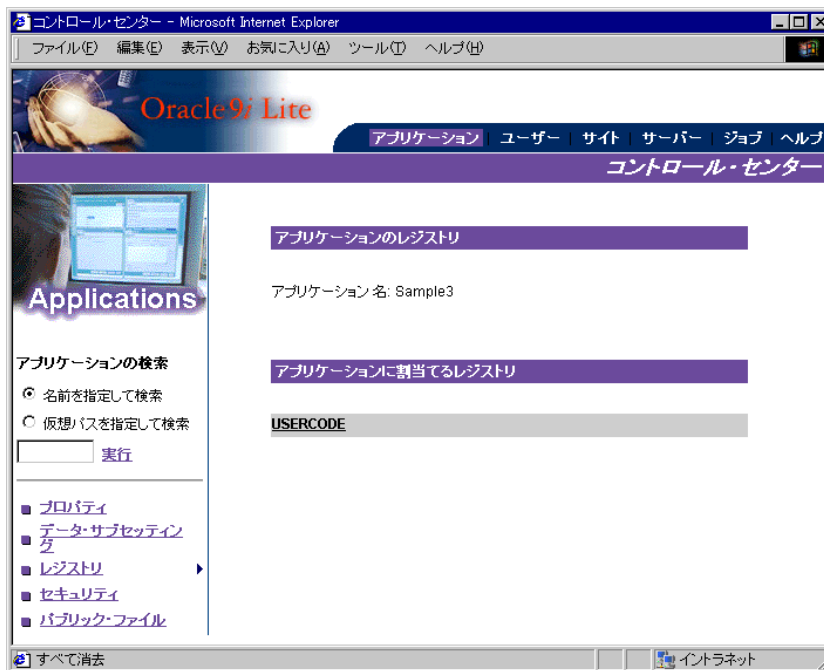
6.9 レジストリ・エントリの変更

Mobile アプリケーション・ユーザーのレジストリ・エントリを変更できます。レジストリには、変更可能なユーザー用レジストリ・エントリが含まれています。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するユーザーの名前と値のペアを含むアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

左のフレームの「レジストリ」をクリックします。図 6-11 に示すように、その Mobile アプリケーションに関連付けられているレジストリ・エントリのリストが表示されます。変更するレジストリ・エントリをクリックします。

図 6-11 レジストリ・エントリの変更

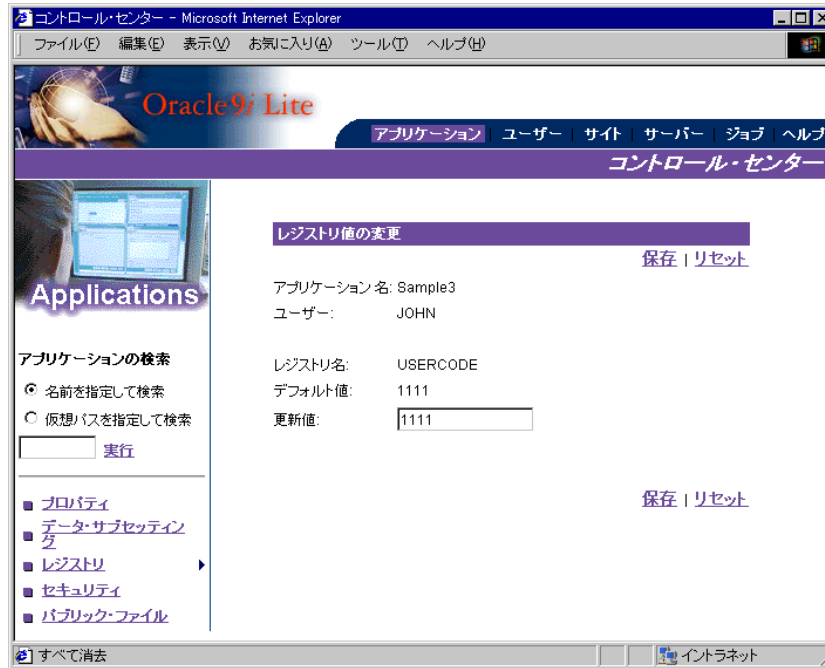


次の情報が右のフレームに表示されます。

| フィールド | 説明 | 必須 |
|-----------|-----------------------------|----|
| アプリケーション名 | アプリケーション名です。これは変更できません。 | ○ |
| ユーザー | アプリケーション・ユーザーです。これは変更できません。 | ○ |
| レジストリ名 | レジストリの名前です。これは変更できません。 | ○ |
| デフォルト値 | レジストリのデフォルト値です。これは変更できません。 | ○ |
| 更新値 | デフォルト値を変更するためのフィールドです。 | |

図 6-12 に示すように、ユーザーの名前と値のペアを変更するには、「更新値」フィールドに新しい値を入力し「保存」をクリックします。

図 6-12 ユーザーの名前と値のペアの変更



6.10 パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択

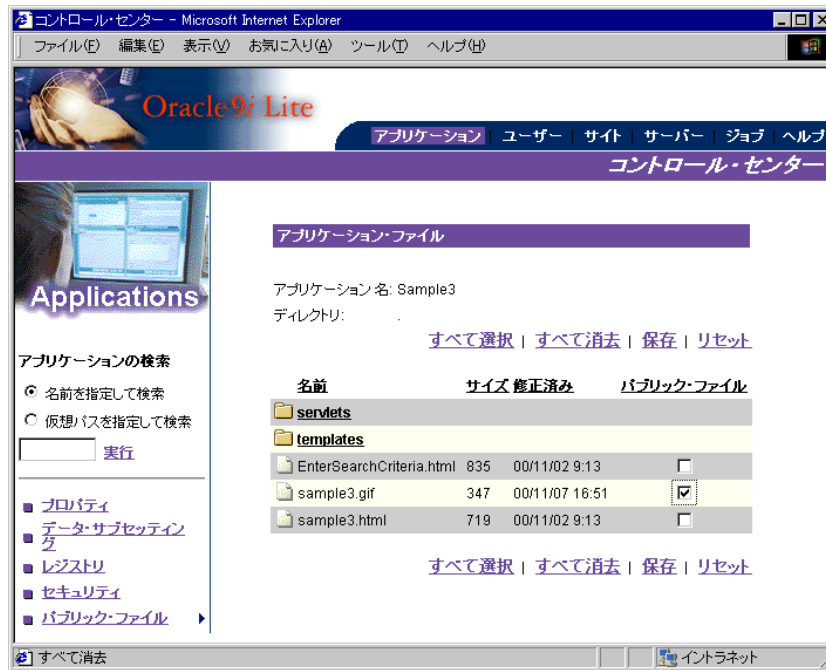
Mobile サーバー・コントロール・センターを使用すると、Mobile サーバー管理者は特定のアプリケーション・ファイルをパブリック・ファイルとして指定できます。これは、Web-to-Go 用 Mobile クライアント・ユーザーと Branch Office ユーザーの両方が、これらのファイルをダウンロードできるという意味です。ファイルは、アプリケーション・レベルでパブリックになります。アプリケーションと同期する Branch Office または Web-to-Go 用 Mobile クライアントのそれぞれが、ダウンロード可能な同じパブリック・ファイルを持つことになります。ユーザーは、次の URL を使用して Branch Office または Web-to-Go 用 Mobile クライアントからパブリック・ファイルをダウンロードします。

`http://<client>/public/download`

Web-to-Go 用 Mobile クライアントからパブリック・ファイルをダウンロードする方法の詳細は、『Oracle9i Lite デプロイ・ガイド』を参照してください。

注意： Mobile サーバー管理者はパッケージ・ウィザードを使用して、Mobile サーバー・リポジトリにアプリケーションをパブリッシュします。パッケージ・ウィザードを使用すると、開発者は新しいアプリケーションを定義したり、既存のアプリケーションを編集できます。パッケージ・ウィザードの詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。

図 6-13 パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択



次に、Mobile サーバー管理者は必要なアプリケーション・ファイルを選択します。ファイルをクリックすると、図 6-13 に示されているようなアプリケーションのリストが表示されます。Mobile サーバー管理者は次の項目を使用してこのリストをソートします。

| ラベル | 説明 |
|-----|--|
| 名前 | アプリケーション・ファイルの名前です。このラベルをクリックすると、すべてのアプリケーション・ファイルおよびフォルダをアルファベット順にソートします。 |
| サイズ | アプリケーション・ファイルまたはフォルダのサイズです。このラベルをクリックすると、すべてのアプリケーション・ファイルおよびフォルダをサイズ順にソートします。 |

パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択

| ラベル | 説明 |
|------------|--|
| 修正済み | アプリケーション・ファイルが最後に修正された日付および時刻です。このラベルをクリックすると、すべてのアプリケーション・ファイルおよびフォルダを最後に修正された日付および時刻順にソートします。 |
| パブリック・ファイル | このチェックボックスを選択すると、 Branch Office ユーザーに、アプリケーション・ファイルに対するアクセス権が付与されます。「パブリック・ファイル」ラベルをクリックすると、選択されたすべてのアプリケーション・ファイルがパブリックとしてグループ化されます。 |

このアプリケーションを検出した後、**Mobile** サーバー管理者は隣の「パブリック・ファイル」チェックボックスを選択して「保存」をクリックすることで、任意のファイルをパブリックとして指定できます。これで、このファイルは **Mobile** サーバー・リポジトリ内でパブリック・ファイルに指定されます。

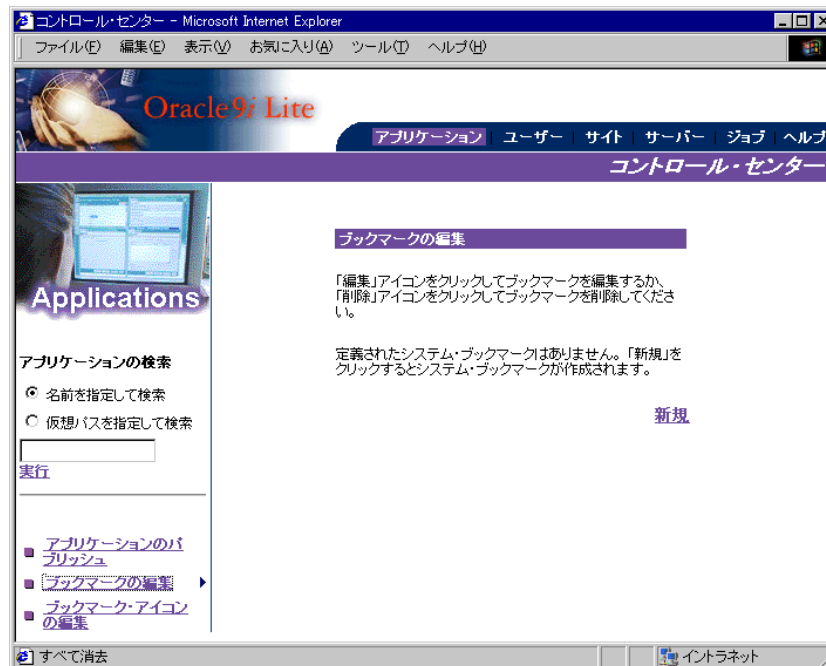
6.11 システム・ブックマークの作成

管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、ユーザーが Web-to-Go 用 Mobile クライアント・ワークスペースから Web サイトにすばやくアクセスするためのブックマークを作成できます。

新規システム・ブックマークの作成

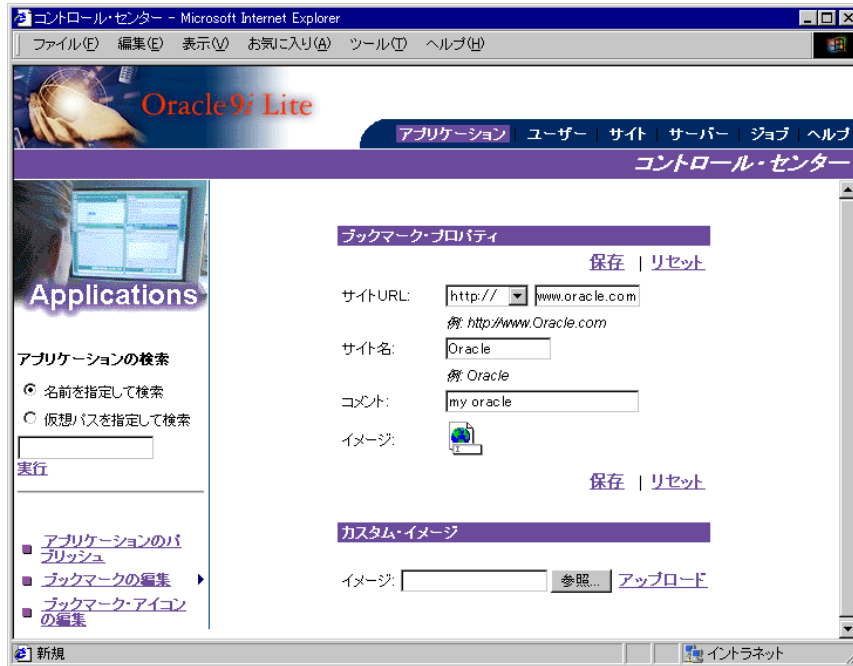
ブックマークを作成するには、「アプリケーション」タブの左のフレームの「ブックマークの編集」オプションをクリックします。図 6-14 に示すように、右のフレームに「ブックマークの編集」パネルが表示されます。「新規」をクリックします。

図 6-14 システム・ブックマークの作成



右のフレームに「ブックマーク・プロパティ」パネルと「カスタム・イメージ」パネルが表示されます（図 6-15）。

図 6-15 「ブックマーク・プロパティ」パネル



管理者は「ブックマーク・プロパティ」パネルの「サイト URL」、「サイト名」および「コメント」フィールドに情報を入力して、ブックマークを作成します。「ブックマーク・プロパティ」パネルには次の要素が含まれています。

| 要素 | 説明 | 必須 |
|---------|---|----|
| サイト URL | 「イメージ」（詳細は後述）の隣に表示されるサイト識別アイコンに対応するインターネット・プロトコルのドロップダウン・リスト・ボックスです。該当するプロトコル・イメージを選択した後、隣接フィールドにサイトの名前（たとえば、 <i>www.Oracle.com</i> ）を入力します。この名前は、手動で入力するか貼り付けます。 | ○ |
| サイト名 | Web サイトの名前（たとえば、 <i>Oracle</i> ）を入力するフィールドです。この名前は、正確なサイト名である必要はありません。管理者とユーザーにとって意味のある名前を使用できます。 | ○ |

| 要素 | 説明 | 必須 |
|------|--|----|
| コメント | サイトの簡単な説明（たとえば、 <i>my oracle</i> ）を入力するフィールドです。この説明は、Web-to-Go ワークスペースにサイト名が表示されるときに、サイト名の下にキャプションとして表示されます。 | |
| イメージ | 「サイト URL」ドロップダウン・リスト・ボックスから選択されたサイト URL プロトコルに対応するイメージを表示します。このイメージは、管理者が「カスタム・イメージ」パネルの「イメージ」フィールドで選択する別のイメージに変更できます。 | |

「サイト URL」、「サイト名」および「コメント」フィールドに適切な情報を入力した後で「保存」をクリックすると、Web-to-Go ワークスペースの「ブックマーク」タブにこのブックマークがパブリッシュされます。「リセット」をクリックすると、すべてのフィールドが消去され、「サイト URL」ドロップダウン・リスト・ボックスがデフォルト設定の *http://* に戻されます。

システム・ブックマークのカスタム・アイコンの作成

管理者は、Web-to-Go のブックマーク機能を使用して、プロトコル・アイコンの .gif イメージを置き換えることができます。アイコンを変更するには、「ブックマーク・プロパティ」パネルの「サイト URL」ドロップダウン・リスト・ボックスで該当するプロトコルを見つけ、使用する新規 .gif イメージの名前を「カスタム・イメージ」パネルの「イメージ」フィールドに入力します。このフィールドに .gif ファイルの名前を入力するには、「参照」ボタンも使用できます。Web-to-Go リポジトリにイメージをアップロードするには、「アップロード」をクリックします。「保存」をクリックすると、既存のイメージが新規イメージに置き換わります。「リセット」をクリックすると、ブックマーク・アイコンが既存のイメージに戻ります。

システム・ブックマークの編集

管理者は、ブックマークの右にある「鉛筆」アイコンをクリックして、ブックマークのサイト名、説明のコメントまたはイメージを変更できます（次図）。

図 6-16 鉛筆アイコン



新規ブックマークの作成に使用した「ブックマーク・プロパティ」パネルと「カスタム・イメージ」パネルが右のフレームに表示され、「サイト URL」、「サイト名」および「コメント」フィールドには以前に入力した情報が表示されています。「サイト名」と「コメント」フィールドの情報を変更し、「保存」をクリックします。「リセット」をクリックすると、これらのフィールドが元の状態に戻ります。ブックマークのアイコンを変更するには、新規 gif ファイルの名前を「イメージ」フィールドに入力するか、「参照」ボタンを使用して .gif ファイルを検索します。Web-to-Go ワークスペースにイメージをアップロードするには、「アップロード」をクリックします。「保存」をクリックすると、ブックマークの既存のイメージが新規イメージに置き換わります。「リセット」をクリックすると、ブックマーク・アイコンが前のイメージに戻ります。

システム・ブックマークの削除

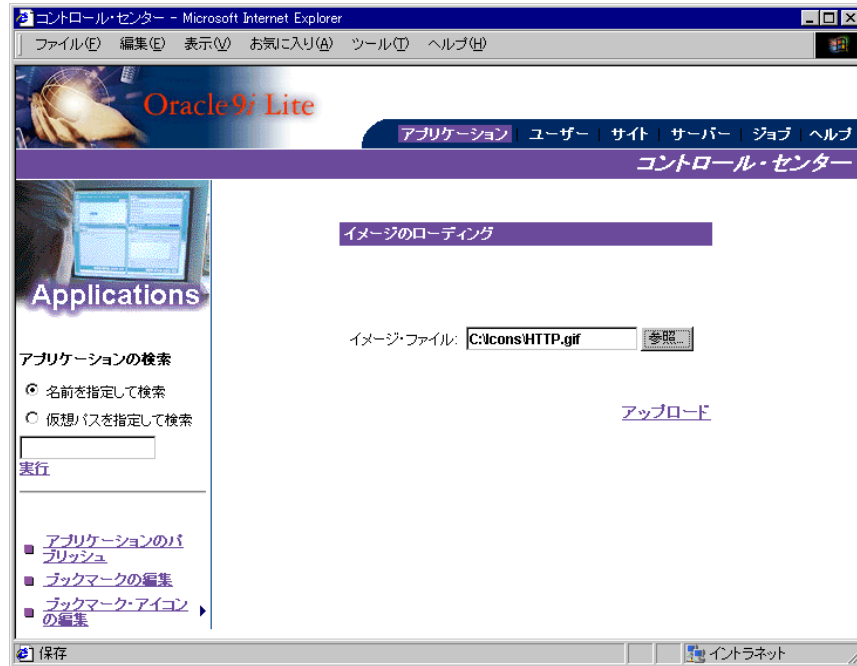
管理者は、ブックマークの隣の「ごみ箱」アイコンをクリックして、ブックマークを削除できます。このアイコンをクリックすると、削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

システムのブックマークのプロトコル・アイコンの編集

管理者は、選択した .gif イメージからインターネット・プロトコル・アイコンを作成できます。これらの .gif ファイルは、左のフレームにある「ブックマーク・アイコンの編集」をクリックして変更できます。次に、右のフレームに現在使用可能な一連のインターネット・プロトコル・アイコンが表示されます。

アイコンを変更するには、該当するイメージまでスクロールして「変更」をクリックします。「イメージのローディング」パネルが表示されます（図 6-17）。

図 6-17 「イメージのローディング」パネル



新規アイコン用として使用する .gif イメージの名前を入力するか、「参照」ボタンを使用して名前を見つけます。「アップロード」をクリックすると、現在のアイコンが新規アイコンに置き換わります。

Mobile サーバーの管理

この章では、Mobile サーバーの管理方法について説明します。内容は、次のとおりです。

- 7.1 項「サーバーのシステム・ステータス・レポートの表示」
- 7.2 項「サーバーの一時停止」
- 7.3 項「サーバーの再開」
- 7.4 項「アクティブなユーザー・セッションの表示」
- 7.5 項「Mobile サーバー・リポジトリへの SSL サーバー証明書のアップロード」
- 7.6 項「Message Generator and Processor (MGP) の起動」
- 7.7 項「MGP の停止」

7.1 サーバーのシステム・ステータス・レポートの表示

サーバーのシステム・ステータス・レポートを表示するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。この作業を実行するには、「サーバー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「ステータスの要約」をクリックします。Mobile サーバー・コントロール・センターが次のようなレポートを表示します。

- システム
- サーバー構成
- リポジトリ

システム

システム・レポートは、次の情報を生成します。

| 項目 | 定義 |
|------------------|---|
| Web-to-Go のバージョン | Web-to-Go のバージョンです。 |
| 開始時刻 | Web-to-Go が開始された時刻です。 |
| 利用可能なメモリー | サーバー上で使用できるメモリーです。 |
| オペレーティング・システム | サーバーのオペレーティング・システムです。 例 : Windows NT 4.0 X86 |
| Java ランタイム環境 | Java ランタイム環境 (JRE) のバージョンです。 例 : 1.2.2 |

サーバー構成

サーバー構成レポートは、次の情報を生成します。

| 項目 | 定義 |
|----|---|
| 構成 | Web-to-Go サーバーのタイプです。次のオプションが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) ■ Apache HTTP Server ■ スタンドアロン |

| 項目 | 定義 |
|----------------|--|
| 実行モード | <p>サーバーの現在の実行モードです。次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 一時停止 Mobile サーバーは一時停止され、管理者権限を持つユーザーのみがアクセスできます。 ■ 標準 すべてのユーザーが、Mobile サーバーにアクセスできます。 |
| セッションの期限切れ | セッションの有効時間です。 |
| アプレットの JDBC 接続 | Mobile サーバーを経由する、アプレットの JDBC 接続です。 |

リポジトリ

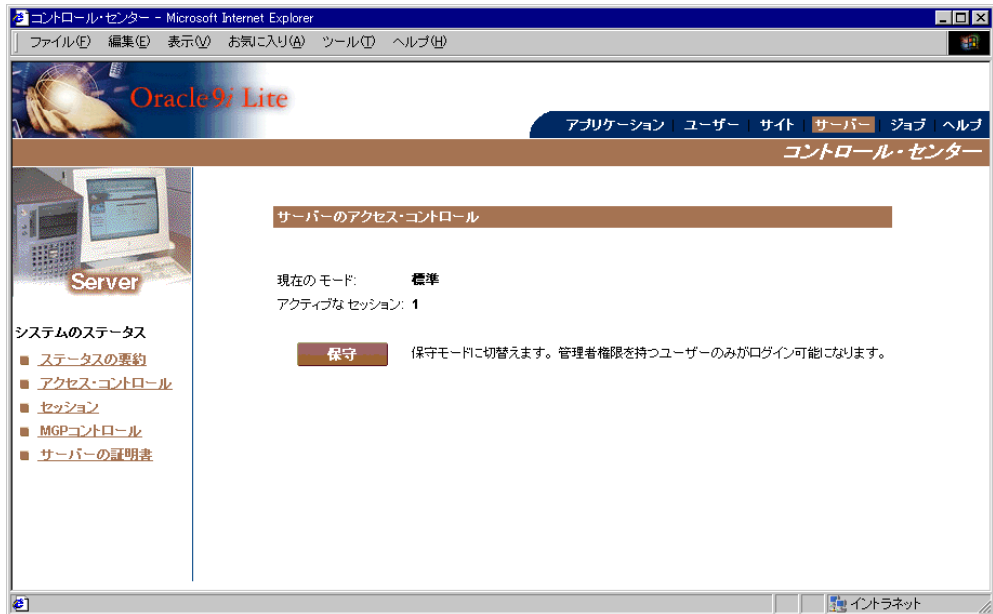
リポジトリ・レポートは、次の情報を生成します。

| 項目 | 定義 |
|-------------|--|
| データベースの URL | <p>Mobile サーバー・リポジトリ・データベースの URL です。</p> <p>例 :</p> <pre>jdbc:oracle:oci8:@webtogo.world</pre> |
| Net8 サービス名 | <p>Mobile サーバー・リポジトリ・データベースの Net8 サービス名です。</p> <p>例 : webtogo.world</p> |
| 所有者 | <p>Mobile サーバー・リポジトリ・データベースの所有者です。</p> <p>例 : MOBILEADMIN</p> |

7.2 サーバーの一時停止

保守目的で Mobile サーバーを一時停止するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。Mobile サーバーを一時停止すると、Mobile サーバーはサーバー上で現在アクティブになっているすべてのセッションを終了し、管理者権限を持つユーザーのみにアクセスを制限します。この作業を実行するには、「サーバー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「アクセス・コントロール」をクリックします (図 7-1)。

図 7-1 サーバーの一時停止

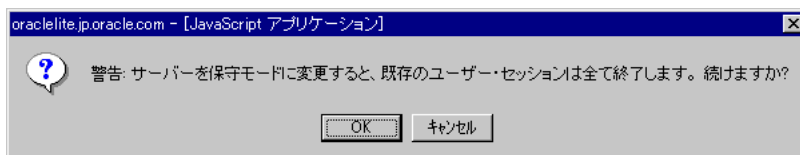


サーバーを一時停止するには、「保守」ボタンをクリックします。

注意： 管理者がログオフすると、サーバーは自動的に標準モードに切り替わります。

次の警告ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 7-2 サーバーの一時停止の警告ダイアログ・ボックス



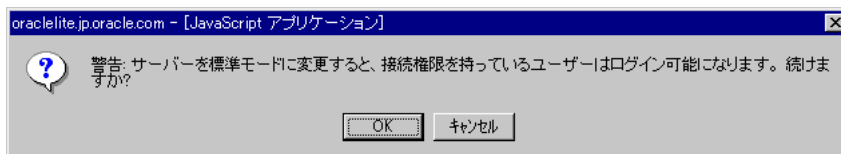
「OK」をクリックします。確認ダイアログ・ボックスが表示されます。

これでサーバーは保守モードで実行され、右のフレームにはシステムの現在のモードとして「保守」と表示されます。

7.3 サーバーの再開

保守目的でサーバーを一時停止した後、Mobile サーバー操作を再開するときは、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。この作業を実行するには、「サーバー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「アクセス・コントロール」をクリックします。サーバーは保守モードで実行され、右のフレームにはシステムの現在のモードとして「保守」と表示されます。「標準」ボタンをクリックします。次の警告ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 7-3 サーバー再開の警告ダイアログ・ボックス



「OK」をクリックします。サーバーが標準モードで実行されることを確認するダイアログ・ボックスが表示されます。

「OK」をクリックします。これでサーバーは標準モードで実行され、右のフレームにはシステムの現在のモードとして「標準」と表示されます。

7.4 アクティブなユーザー・セッションの表示

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用すると、管理者は任意の時点で Mobile サーバーに接続しているすべてのユーザーを追跡できます。

アクティブな Mobile サーバー・セッションのレポートを表示するには、左のフレームにある「セッション」をクリックします。右のフレームに、次の情報を含むレポートが表示されます。

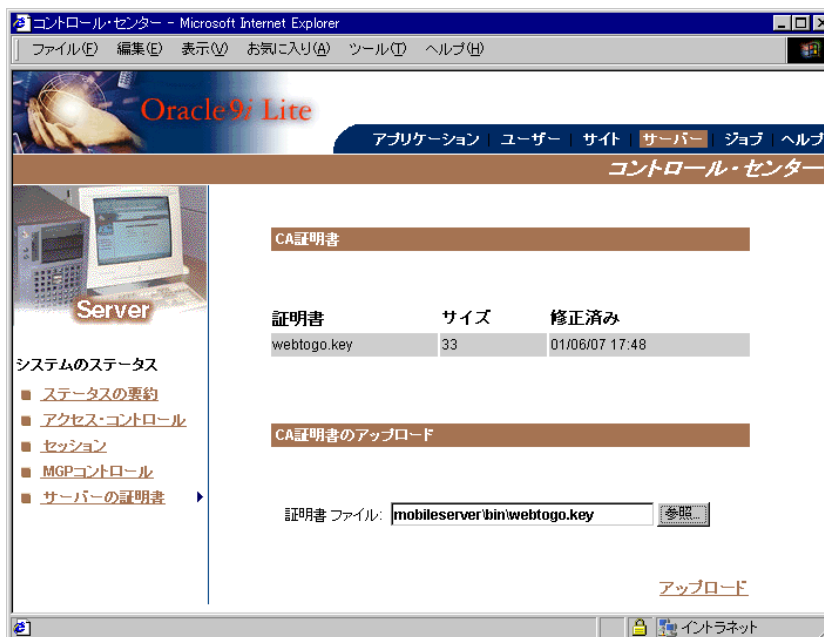
| ラベル | 説明 |
|----------|------------------------|
| ユーザー | Mobile ユーザーの名前です。 |
| 作成日 | セッションが作成された日付および時刻です。 |
| 最終リフレッシュ | セッションに最後にアクセスがあった時刻です。 |

7.5 Mobile サーバー・リポジトリへの SSL サーバー証明書のアップロード

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用すると、Mobile サーバー管理者は、認証局 (CA) から Mobile サーバー・リポジトリにサーバー証明書の公開鍵のコピーをアップロードできます。Mobile サーバー・リポジトリには、暗号化形式の公開鍵のファイルが格納されています。Mobile サーバーが公開鍵を Mobile サーバー・リポジトリにアップロードした後で、Web-to-Go 用 Mobile クライアントをインストールすると、Web-to-Go 用 Mobile クライアントの暗号化キーがインストールされます。このキーは、Mobile サーバーとの SSL ハンドシェイクに使用されます。

公開鍵を Mobile サーバー・リポジトリにアップロードするには、Mobile サーバー管理者は左のフレームにある「サーバーの証明書」を選択します。右のフレームで、管理者は「参照」ボタンを使用して認証局 (CA) から証明書を選択します (図 7-4)。次に「ファイルのアップロード」ウィンドウを使用して、Mobile サーバー管理者は証明書ファイルを Mobile サーバー・リポジトリにアップロードします。

図 7-4 SSL サーバー証明書のアップロード



7.6 Message Generator and Processor (MGP) の起動

保守目的で停止した MGP を起動するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。この作業を実行するには、「サーバー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「MGP コントロール」をクリックします。「開始」ボタンをクリックします。図 7-5 に示すように、右のフレームに現在のモードとして「MGP を起動中」と表示され、「Status」ボタンが「停止」ボタンに置き換わります。

MGP の詳細は、第 10 章「レプリケーションの管理」の 10.4 項「Message Generator and Processor (MGP)」を参照してください。

図 7-5 MGP を起動中



7.7 MGP の停止

保守目的で MGP を停止するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。この作業を実行するには、「サーバー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「MGP コントロール」をクリックします。右のフレームに「起動中」と表示され、MGP がアクティブになっていることを示します。

図 7-6 MGP を停止



「停止」ボタンをクリックします。図 7-6 に示すように、右のフレームに MGP の現在のモードとして「停止」と表示され、「Status」ボタンが「開始」ボタンに置き換わります。

Web-to-Go サイトの管理

この章では、Web-to-Go サイトの管理方法について説明します。内容は、次のとおりです。

- 8.1 項「サイトのリスト」
- 8.2 項「Mobile サーバーからのサイトの消去」
- 8.3 項「サイト詳細の表示」

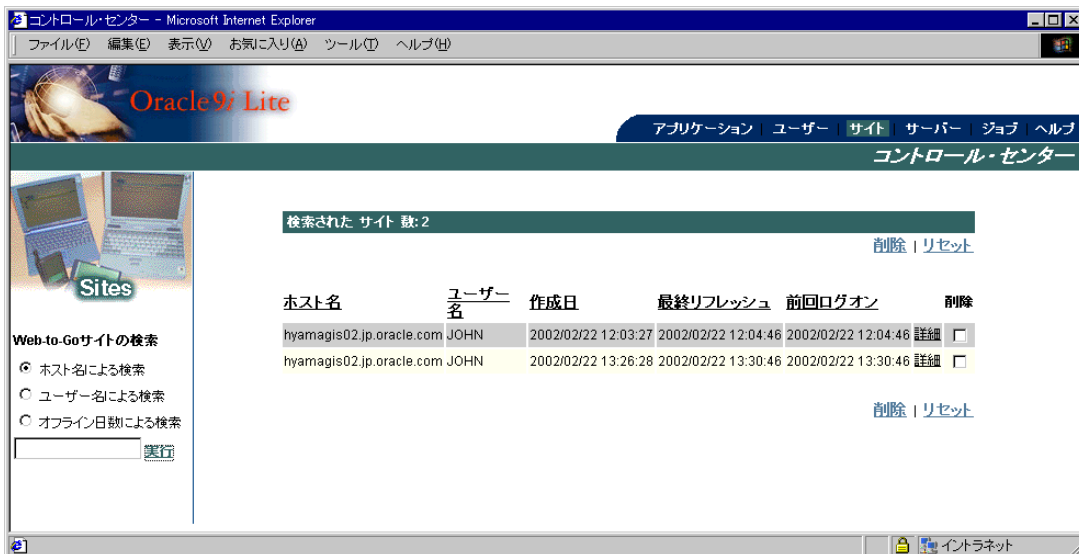
8.1 サイトのリスト

Web-to-Go サイトのリストを取得するには、「サイト」タブをクリックしてから、左のフレームにある「ホスト名による検索」、「ユーザー名による検索」または「オフライン日数による検索」オプション・ボタンをクリックします。「オフライン日数による検索」オプションは、ユーザーが最後にデータを同期した日、またはオンライン・モードに切り替えた日からの日数で、ユーザーを検索します。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにサイトのリストが表示されます。

8.2 Mobile サーバーからのサイトの消去

サイトを消去すると、サイトとサイトの全内容が Mobile サーバーから削除されます。Mobile サーバーからサイトを消去するには、「サイト」タブをクリックしてから、「ユーザー名による検索」、「ホスト名による検索」または「オフライン日数による検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。サイトのリストが表示されます。図 8-1 に示すように、サイトを削除するには、「削除」列にあるチェックボックスを選択して「削除」をクリックします。「リセット」をクリックすると、リストは元の状態に戻ります。

図 8-1 サイトの削除



8.3 サイト詳細の表示

サイトの詳細を表示するには、詳細を表示するサイトの「詳細」をクリックします。右のフレームには、次のサイトのクライアント詳細が表示されます。

| 項目 | 定義 |
|------------------|---|
| ホスト名 | サイトのホスト名です。 例: <i>host.domain</i> |
| オペレーティング・システム | Web-to-Go 用 Mobile クライアントのオペレーティング・システム、バージョンおよびアーキテクチャです。 例: Windows NT 4.0 x86 |
| Java ランタイム環境 | Java ランタイム環境 (JRE) のバージョンです。たとえば、次のとおりです。 1.2.2 |
| Web-to-Go のバージョン | Web-to-Go のバージョンです。 |

右のフレームには、次のユーザー情報も表示されます。

| 項目 | 定義 |
|----------|-------------------------------------|
| ユーザー | サイト・ユーザー名です。 |
| モード | サイトの最終モードです。最終モードは、オンラインまたはオフラインです。 |
| 作成日 | サイトが作成された日付および時刻です。 |
| 最終リフレッシュ | サイトが最後に同期された日付および時刻です。 |
| 前回ログオン | ユーザーが前回ログオンした日付および時刻です。 |

Web-to-Go ジョブの管理

この章では、Web-to-Go ジョブの管理方法について説明します。内容は、次のとおりです。

- 9.1 項「データ同期ジョブのスケジュール」
- 9.2 項「データ同期ジョブのスケジュールの表示」
- 9.3 項「新しいデータ同期ジョブの作成」
- 9.4 項「データ同期ジョブの編集」
- 9.5 項「データ同期ジョブの削除」

9.1 データ同期ジョブのスケジュール

Mobile サーバー・コントロール・センターの「ジョブ」タブでは、Mobile サーバー管理者は特定の Web-to-Go 用 Mobile クライアントまたは Branch Office の同期ジョブを作成できます。Web-to-Go 用 Mobile クライアントのジョブがスケジュールされると、クライアントは次に Mobile サーバーと同期するときにそのジョブを受信します。この同期ジョブは、それを作成したときに Mobile サーバー管理者が指定した開始日付と指定時刻に、自動的に Mobile サーバーとの同期をトリガーします。

9.2 データ同期ジョブのスケジュールの表示

スケジュール済みのジョブのリストを表示するには、左のフレームにある「ジョブを一覧表示」をクリックします。右のフレームに、Mobile サーバーに登録されているスケジュール済みジョブの現在のリストが表示されます。これらのジョブに関する次のラベルの項目が表示されます。

| ラベル | 説明 |
|----------|---|
| クライアント名 | このジョブがスケジュールされている Web-to-Go 用 Mobile クライアント・サイトの名前です。 |
| 名前 | ジョブの名前です。ジョブ名の「同期」をクリックすると、「 データ同期ジョブの編集 」で説明されている「ジョブの編集」パネルが表示されます。 |
| 実行予定日 | スケジュールされているジョブの実行頻度です。 |
| 実行予定開始時刻 | スケジュールされているジョブの開始時刻です。 |
| ステータス | ジョブのステータスです。このフィールドは、ジョブが正常に終了すると「正常に実行」になり、正常に終了しない場合は「実行に失敗」になります。 |
| 実行日 | ジョブが実際に実行された日付です。 |
| 削除 | スケジュール済みのジョブを削除します。「 データ同期ジョブの削除 」を参照してください。 |

「ジョブを一覧表示」をクリックすると、スケジュール済みのジョブのリストがリフレッシュされます。

ユーザーが Web-to-Go 用 Mobile クライアントで作成して、Mobile サーバーと同期されていないジョブは、「ジョブ」タブには表示されません。

9.3 新しいデータ同期ジョブの作成

Mobile サーバー管理者は、「ジョブ」画面の左のフレームの「新規ジョブ」リンクをクリックして、ジョブをスケジュールします。このリンクをクリックすると、[図 9-1](#) に示すような「ジョブの作成」パネルが起動されます。このパネルには、「ジョブ名」と「クライアント名」、「ジョブのスケジュール設定」および「ジョブの所有者」の3つのセクションがあります。現在、Mobile サーバーには事前に定義されたジョブが1つあります。

図 9-1 「ジョブの作成」パネル

管理者はこのジョブを作成したクライアント名を選択し、次に「ジョブのスケジュール設定」セクションでジョブを実行する時刻、曜日または日付を選択します。このパネルのオプション・ボタンとフィールドを組み合わせることで、管理者は毎日の指定時刻に実行する、毎週または毎月の特定曜日の指定時刻に実行する、などのようにジョブをスケジュールできます。

「ジョブの作成」パネルには、「保存」および「リセット」のオプションもあります。「保存」オプションはジョブのスケジュールに対するすべての変更をコミットし、「リセット」オプションは画面を元の状態に戻します。

注意： レプリケーション・ジョブがスケジュールされていても、保留中のトランザクションをクライアントがコミットしていない場合、そのクライアントではジョブは実行されません。

9.4 データ同期ジョブの編集

Mobile サーバー管理者は、「スケジュール済みのジョブ」のリストの「ジョブ名」をクリックして、既存のジョブのスケジュールを変更します (図 9-2)。

図 9-2 スケジュール済みのジョブのリスト

| クライアント名 | 名前 | 実行予定日 | 実行予定開始時刻 | ステータス | 実行日 | 削除 |
|--------------------------|-----------------|-------|----------|-------|-----|--------------------------|
| hyamagis02.jp.oracle.com | Synchronization | 毎日 | 15:20 | 未実行 | | <input type="checkbox"/> |

「ジョブの編集」パネルには、「ジョブの作成」パネルと同じフィールドとオプション・ボタンがあります。管理者は、これらの機能を使用してジョブのスケジュールを変更できます。終了すると、ブランチオフィス管理者は「保存」オプションを選択して変更をコミットできます。しかし、どの時点でも、管理者は「ジョブの編集」パネルの「リセット」ボタンを選択して、ジョブのスケジュールを元の状態に戻せます。

9.5 データ同期ジョブの削除

Mobile サーバー管理者は、[図 9-2](#) に示すように、ジョブの隣の「削除」チェックボックスを選択して「保存」をクリックして、スケジュール済みのジョブのリストからスケジュール済みジョブを削除できます。「すべて選択」オプションをクリックして「保存」をクリックすると、すべてのジョブを削除します。「リセット」をクリックすると、スケジュール済みのジョブのリストは元の状態に戻ります。「すべて消去」をクリックすると、削除するように選択されたすべてのジョブの選択が解除されます。

注意： クライアント・ユーザーが Mobile サーバーと同期するまで、ジョブは Web-to-Go 用 Mobile クライアントから削除されません。

10

レプリケーションの管理

この章では、レプリケーションの管理方法について説明します。内容は、次のとおりです。

- 10.1 項「レプリケーションとスナップショットの管理」
- 10.2 項「スナップショット」
- 10.3 項「スナップショット・テンプレート」
- 10.4 項「Message Generator and Processor (MGP)」

10.1 レプリケーションとスナップショットの管理

レプリケーションとスナップショットの管理方法の詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

10.2 スナップショット

スナップショットは、ある瞬間における表またはビューの行全体またはサブセットです。実表に対して SQL 問合せを実行することで作成されます。スナップショットには、読取り専用スナップショットと更新可能スナップショットがあります。複雑さは様々です。

読取り専用スナップショット

読取り専用スナップショットは、問合せにのみ使用します。マスター表に対する変更は、Mobile クライアントによってスナップショットにレプリケートされます。

更新可能スナップショット

更新可能スナップショットは、マスター表の更新可能コピーです。更新可能スナップショットは、マスター表全体の完全なコピーを含むように定義するか、マスター表の行のうち、値による選択条件を満たす行のみを含むように定義します。スナップショットには変更を加えることができ、この変更を Mobile Sync は元のマスター表へ伝播します。

スナップショットが更新可能になるのは、そのスナップショットの基になるすべての実表が主キーを持つ場合のみです。実表が主キーを持たない場合、そのスナップショットは読取り専用になります。

スナップショットのリフレッシュ

更新可能スナップショットで完全リフレッシュ方法と高速リフレッシュ方法のどちらを使用するかは、ユーザーの定義により決まります。完全リフレッシュ方法では、リフレッシュのたびにスナップショットが再作成されます。高速リフレッシュ方法では、スナップショットの既存のデータがリフレッシュされます。一般に、スナップショットの定義が簡単なほど、更新が早くなります。高速リフレッシュ方法の詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。

10.3 スナップショット・テンプレート

スナップショットはアプリケーションを基にしています。オフラインに切り替えるクライアントは、すべて同一のスナップショット定義を使用します。この結果、すべてのクライアントが同じアプリケーション・データをダウンロードすることになります。場合によっては、アプリケーションがダウンロードするデータを各ユーザーごとに指定することがあります。スナップショット・テンプレートを使用すると、これが可能です。

スナップショット・テンプレートは、データ・サブセッティング・パラメータが含まれている SQL 問合せです。データ・サブセッティング・パラメータは、コロン (:) とその後に続く識別子名です。たとえば、次のように指定します。

```
:var1
```

Mobile クライアントがクライアント・マシン上にスナップショットを作成するときに、この変数がユーザー固有の値に置き換えられます。ユーザーごとに異なる値を指定すると、問合せにより返される行の数を制御できます。

パッケージ・ウィザードを使用して、スナップショット定義の作成と同じ方法でスナップショット・テンプレートを指定できます。詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。

データ・サブセッティング・パラメータを文字列の一部に含めることはできないため、変数を一重引用符 (') で囲まないでください。データ・サブセッティング・パラメータの値として文字列を指定する場合は、文字列自体を一重引用符で囲む必要があります。テンプレート変数の値は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して指定します。

スナップショット・テンプレートの例

次の例では、特定のユーザーごとに異なる値 (10、20、'KING' など) を指定して、管理者がスナップショット・テンプレートの動作と出力を制御できるようにしています。

例 1:

```
スナップショット・テンプレート:select * from emp where deptno = :dno
```

| ユーザー | 値 | スナップショットの問合せ |
|------|----|-------------------------------------|
| John | 10 | select * from emp where deptno = 10 |
| Jane | 20 | select * from emp where deptno = 20 |

例 2:

スナップショット・テンプレート: `select * from emp where ename = :ename`

| ユーザー | 値 | スナップショットの問合せ |
|------|--------|---|
| john | 'KING' | <code>select * from emp where ename = 'KING'</code> |

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用したデータ・サブセッティング値の指定の詳細は、6.8 項「データ・サブセッティング・パラメータの変更」を参照してください。

10.4 Message Generator and Processor (MGP)

Message Generator and Processor (MGP) はマルチスレッド・プロセスです。スレッドの数は、Mobile サーバーの構成ファイル `webtogo.ora` の `CONSOLIDATOR` セクションのパラメータ `MAX_THREADS` を使用して構成できます。付録 B「Mobile サーバー構成パラメータ」を参照してください。このパラメータは、MGP プロセス内で起動されるスレッドの数を指定します。このパラメータは、CPU の数以上に指定する必要があります。たとえば、`MAX_THREADS=3` と指定します。

10.4.1 MGP のサイクル

MGP はサイクルで動作します。サイクルは 1 つの大きなトランザクションで、全ユーザー用の Oracle データベース・サーバーに対してデータが適用され、そのデータベース・サーバーからデータが作成されます。1 つのサイクルには、`APPLY` 用と `COMPOSE` 用の 2 つのサブプロセスがあります。サイクル間には秒単位で遅延を構成できます。MGP の構成方法の詳細は、10.4.2 項「MGP の構成」を参照してください。

たとえば、10 人のユーザーが Mobile サーバーとデータの同期を取る場合、MGP は一定の秒数が経過した (`DELAY`) 後でサイクルを開始し、この 10 人のユーザー用にデータを適用し作成します。このサイクルの後、MGP は `DELAY` 秒数の間停止してから別のサイクルを開始する、というようにサイクル処理を行います。

場合によっては、MGP プロセスを (たとえばメモリーを解放するために) 完全にシャットダウンし、最初から再起動することをお勧めします。これを行うには、MGP プロセスを停止する前に MGP で実行するサイクル数を指定します。

MGP サイクル間の遅延およびサイクル数の構成方法の詳細は、10.4.2 項「MGP の構成」を参照してください。

10.4.2 MGP の構成

MGP サイクルの長さは同期対象のデータやその他の制約に依存するため、MGP のサイクル処理にかかる時間を制御することはできません。

ただし、次の 2 つのパラメータを設定すると MGP を構成できます。

- サイクル間の遅延秒数 (DELAY)
- 再起動間のサイクル数 (NUMBER)

この 2 つのパラメータは、DOS プロンプトから MGP アプリケーションを実行するときに指定するか、**mgp.bat** ファイルで設定します。

MGP アプリケーションの実行時にこの 2 つのパラメータを指定する場合は、次の構文を使用します。

```
mgp <サイクル間の遅延秒数> <再起動間のサイクル数> <ユーザー名> <パスワード>
```

次に例を示します。

```
mgp 60 10 mobileadmin manager
```

この例では、サイクル間の遅延を 60 秒、サイクル数を 10 に指定しています。

この 2 つのパラメータは、次のディレクトリにある **mgp.bat** ファイルで手動で設定することもできます。

```
ORACLE_HOME¥mobile¥server¥bin
```

MGP はマルチスレッド・プロセスであるため、MAX_THREADS パラメータを設定してスレッド数を構成できます (静的のみ)。

パラメータ SLEEP_TIME および MAX_THREADS を **webtogo.ora** ファイルで設定できます。スレッドがスリープ・モードになる時間を構成するには、パラメータ SLEEP_TIME を設定します。このパラメータを設定すると、COMPOSE サブプロセス内のスレッドにのみ適用されます。たとえば、Oracle データベース・サーバーがビジー状態であるため、MGP スレッドではデータを作成しないようにします。これは、データの作成には多くの CPU、RAM および I/O リソースが必要になるからです。この場合、MGP スレッドをしばらくの間スリープ・モードにすると、サーバー負荷がある程度軽減されます。

次に例を示します。

```
SLEEP_TIME = 20000
MAX_THREADS = 3
```

この例では、パラメータ SLEEP_TIME は、MGP プロセスがクライアント処理間で 20000 ミリ秒スリープすることを指定し、パラメータ MAX_THREADS は、MGP プロセス内で起動されるスレッド数が 3 つであることを指定します。

トラブルシューティングのための FAQ

この付録には、Mobile サーバーのトラブルシューティングに関してよくある質問とその回答が含まれています。内容は次のとおりです。

- [A.1 項「Mobile サーバー・リポジトリに含まれるファイルの検査」](#)
- [A.2 項「デバッグ・モードでの Mobile サーバーの実行」](#)
- [A.3 項「最初の同期が原因で発生するブラウザのタイムアウト」](#)

A.1 Mobile サーバー・リポジトリに含まれるファイルの検査

Mobile サーバー・シェル・ユーティリティ (wsh) を使用すると、Mobile サーバー・リポジトリを対話的に検査および変更できます。DOS プロンプトで次のように入力します。

```
wsh -L system/x@olite-db
```

または、次のように入力します。

```
wsh -o mobileadmin/manager@o8db
```

たとえば、DOS のプロンプトで次のサンプル・コードを入力できます。

```
wsh -o mobileadmin/manager@webtogo.world  
wsh -L system/x@webtogo
```

リポジトリ・プロンプトが表示されます。ここで次のコマンドを使用してリポジトリの検査と変更を行えます。

| コマンド | 定義 |
|------|---|
| dir | ディレクトリ内のファイルの一覧を表示します。 |
| copy | 1つ以上のファイルを別の位置にコピーします。 |
| cp | 1つ以上のファイルを別の位置にコピーします。 |
| edit | ファイルを編集するためのメモ帳を起動します。 |
| del | 1つ以上のファイルを削除します。 |
| rm | 1つ以上のファイルを削除します。 |
| cd | カレント・ディレクトリの名前を表示するか、カレント・ディレクトリを変更します。 |
| md | ディレクトリを作成します。 |
| rd | ディレクトリを削除します。すべてのファイルとサブディレクトリも含めてディレクトリを削除するには、オプション <code>-s</code> を使用します。 |
| type | テキスト・ファイル (複数も可) の内容を表示します。 |
| exit | コマンド・シェルを終了します。 |
| quit | コマンド・シェルを終了します。 |
| help | シェル・コマンドのヘルプ情報を表示します。 |
| sync | ファイル・システムとデータベースの内容を同期します。 |

A.2 デバッグ・モードでの Mobile サーバーの実行

Apache Server、Oracle9i Application Server (Oracle9iAS)、Oracle HTTP Server または Webtogo.exe とともに実行中の Mobile サーバーで問題が発生した場合は、次の手順を実行して Mobile サーバーをデバッグ・モードで実行できます。

1. Mobile サーバーと、Apache Server、Oracle9iAS、Oracle HTTP Server または Webtogo.exe をシャットダウンします。
2. **webtogo.ora** ファイルの [DEBUG] パラメータに次の値が含まれていることを確認します。

| | |
|---------|--|
| ENABLE | YES |
| MACHINE | <i>debug_client</i> 。 <i>debug_client</i> は、Oracle9iAS、Apache Server または Oracle HTTP Server からデバッグ・メッセージを送信する相手先のマシンの名前です。 |
| PORT | 100 |

3. デバッグ・マシン上の DOS プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
wsh -m 100
```

(wsh はアプリケーションで、-m は監視機能を使用可能にして、100 は監視するポートを指定します。)
4. Mobile サーバーを再起動します。

注意： Apache HTTP Server、Oracle9iAS または Oracle HTTP Server ではなく Webtogo.exe を実行している場合は、コマンドラインに `-d0` と指定するとデバッグできます。次に例を示します。

```
c:\> webtogo.exe -d0
```

A.3 最初の同期が原因で発生するブラウザのタイムアウト

問題：

クライアントとサーバー間の最初の同期が長時間（たとえば、45分以上）かかる場合、Microsoft Internet Explorer ブラウザがタイムアウトすることがあります。

解決策：

この解決策は、Microsoft Internet Explorer のみで使用できます。

Windows 32 上の特定のレジストリ・キーの `ReceiveTimeout` 値を変更します。

`ReceiveTimeout` 値（サーバーからデータを受信するときにブラウザが待機するミリ秒数）を変更する場合は、**setup.ini** ファイルの「REGISTRY」セクションにある次の 2 行のコメントを解除します（このファイルは、Web-to-Go 用 Mobile クライアントがクライアント・マシンに初めてインストールされるときに、サーバーからクライアントにダウンロードされます）。

```
#KEY: HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥
      Internet Settings
#VALUEDWORD: ReceiveTimeout = 40000000
```

この 2 行のコメントを解除するには、KEY 文および VALUEDWORD 文の前にあるハッシュ・マーク（#）を削除してから、`ReceiveTimeout` 値を該当する値（ミリ秒単位）に変更します。この例では、タイムアウト値は 40000 秒です。

Mobile サーバー・リポジトリにある **setup.ini** ファイルは、次のコマンドを実行して変更できます。

```
wsh -o mobileadmin/manager@webtogo.world
cd setup
edit setup.ini
```

Mobile サーバー構成パラメータ

この章では、Mobile サーバー構成パラメータについて説明します。構成パラメータは、**webtogo.ora** ファイルに含まれています。Mobile サーバーは、**webtogo.ora** ファイルを使用して Mobile サーバーを初期化します。Mobile サーバーを起動すると、**webtogo.ora** ファイルにあるパラメータが読み取られます。このファイルは、この章で示す Mobile サーバー・システム全体に関するパラメータを定義します。

B.1 [WEBTOGO]

WEBTOGO パラメータは、Web-to-Go 用 Mobile クライアントと Mobile サーバーの両方の動作を制御します。

表 B-1 WEBTOGO パラメータ

| パラメータ | 定義 |
|--|---|
| USE_SYSTEM_CLASSPATH=YES | Mobile サーバー・リポジトリを検索する前に、コンピュータのクラスパスで Java クラスを検索するかどうかを制御します。 |
| MODE=SERVER | Mobile サーバーが実行されるモードです。有効なモードは、SERVER、CLIENT、BRANCH です。「BRANCH」は、Mobile サーバーがブランチ操作用にクライアント・モードで実行されることを示します。 |
| PORT=80 | Mobile サーバーを実行するポートの番号です。Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) のインストールでは無効です。 |
| CLASSPATH= | Mobile サーバー・リポジトリに含まれるディレクトリのリストです。Web-to-Go はここで Java クラスを検索します。 |
| PROXY_SERVER=proxy.com | プロキシ・ホスト名の番号です。Web-to-Go 用 Mobile クライアント・セットアップは、このエントリを変更します。 |
| PROXY_PORT=80 | プロキシのポート番号です。Web-to-Go 用 Mobile クライアント・セットアップは、このエントリを変更します。 |
| SQL_RETRIES=5 | タイムアウトになるまでの JDBC 接続確立試行回数です。 |
| SESSION_EXPIRATION=45 | ログオン・セッションの期限切れ時間です。指定された時間 (分) を超えてもアクティブになっていないユーザーは、ログアウトされます。 |
| KEY_EXPIRATION=20 | ログオン・キーが無効になるまでの時間 (分) です。 |
| PUBLIC_NAME=/public | パブリックな URL 名です。デフォルト値は /public です。 |
| BASE_URL=/webtogo | Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) で、Web-to-Go がインストールされるベース URL です。 |
| ADMIN_PORT=8080 | Mobile サーバーを起動する管理ポートです。 |
| ADMIN_TNS_NAME=WEBTOGO.WORLD | Mobile サーバー・リポジトリの TNS 名です。 |
| ADMIN_JDBC_URL=jdbc:oracle:oci8:@webtogo.world | Mobile サーバー・リポジトリの JDBC の URL です。 |
| FONT_NAME=Arial | Web-to-Go ワークスペースのフォントです。 |

表 B-1 WEBTOGO パラメータ

| パラメータ | 定義 |
|--|--|
| APPLET_USE_THIN_JDBC=YES | <p>Web-to-Go で、すべてのデータベース・コールに JDBC Thin ドライバまたは Web-to-Go データ通信リンクを使用することを要求します。Web-to-Go は、JDBC Thin ドライバを使用しない場合は Web-to-Go 内部の JDBC ドライバを使用します。</p> <p>このパラメータを YES に設定する場合は、パラメータ THIN_JDBC_URL も設定する必要があります。</p> |
| THIN_JDBC_URL: jdbc:oracle:thin:@foo- pc:1521:orcl | <p>Mobile サーバー・リポジトリの Thin JDBC URL です。この URL は、JDBC Thin ドライバが Mobile サーバー・リポジトリ・データベースに接続するときに使用されます。</p> |
| LOAD_LIBRARIES | <p>Mobile サーバーが事前にロードしておく必要があるシステム・ライブラリ (DLL) を、セミコロンで区切ったリストです。</p> <p>例:</p> <p>LOAD_LIBRARIES=myapp;olmuadm</p> <p>myapp.dll と olmuadm.dll という 2 つの DLL が、Mobile サーバーが起動するときにロードされます。</p> |
| SOCKET_TIMEOUT | <p>サーバー・ソケットに対する read() コールがタイムアウトになる前にブロックする秒数です。0 に設定すると、read() コールはタイムアウトになりません。</p> <p>デフォルトは 60 秒です。</p> |
| ADMIN_USER | <p>暗号化されたユーザー名です。これは編集しないでください。次の URL にアクセスすると設定されます。</p> <p><server>/startup</p> |
| ADMIN_PASSWORD | <p>暗号化されたユーザー・パスワードです。次の URL にアクセスすると設定されます。</p> <p><server>/startup</p> |

表 B-1 WEBTOGO パラメータ

| パラメータ | 定義 |
|---|--|
| RESTRICTED_ADMIN_HOSTS=<list of comma separated IP addresses> | <p>このパラメータは、「管理者」アクセス権を持つアカウントにセキュリティを設定します。このパラメータにより、「管理者」アクセス権があるアカウントに対して、指定された IP アドレス・セットに対するログイン要求を許可するように、Mobile サーバーを構成できます。</p> <p>また、Mobile サーバーの開始機能に対するアクセスも制限できます。このパラメータの値リストに含まれる IP アドレスのマシンで実行中のブラウザからの有効なログイン要求にのみ、アクセスが付与されます。</p> <p>例：</p> <pre>RESTRICTED_ADMIN_HOSTS =144.125.127.150,144.125.127.101</pre> <p>注意：「管理者」アクセス権を持つユーザーは、プロキシ・サーバー経由で接続しないでください。プロキシ・サーバーをバイパスする方法の詳細は、付録 F「プロキシ・サーバーのバイパス」を参照してください。</p> |
| SSL=YES | このパラメータを YES に設定すると、Mobile サーバーは SSL モードで実行します。この機能を使用するには、Mobile サーバーが Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) または SSL 対応の Apache の内部モジュールとして実行されている必要があります。 |
| CUSTOM_WORKSPACE=no | カスタム・ワークスペースを使用するかどうかを示します。 |
| CUSTOM_DIRECTORY=/myworkspace | リポジトリ内のカスタム・ワークスペース・ファイルの場所です。 |
| DEFAULT_PAGE=myfirstpage.html | ワークスペースの最初のページです。次の URL にアクセスすると、このページが表示されます。 <code>http://server/webtogo/</code> |
| CUSTOM_FIRSTSERVLET=HelloWorld;/hello | このパラメータは、最初のサーブレットをカスタム・ワークスペースに追加するために使用します。最初のサーブレットの中で、 <code>addServlet()</code> コールを使用すると、さらにサーブレットをカスタム・ワークスペースに追加できます。 書式： <code>classname;virtual path</code> |
| WTG_PROXY | アプリケーションをデプロイするために Mobile サーバーに接続するときに使用する、HTTP プロキシです。 サンプル値： <code>www-proxy.dlsun1.com</code> |

表 B-1 WEBTOGO パラメータ

| パラメータ | 定義 |
|------------------------|--|
| WTG_PROXY_PORT | アプリケーションをデプロイするために Mobile サーバーに接続するときに使用する、HTTP プロキシ・ポートです。 サンプル値： 80 |
| TRACE | デバッグ出力を有効にします。 サンプル値： NO |
| TRACE_ALL | 詳細なデバッグ出力を有効にします。SQL 文および実行時刻を含みます。 サンプル値： NO |
| JAVA_OPTION=value | このパラメータは、Java VM に追加のランタイム引数を指定するときに使用します。 例： JAVA_OPTION= -Djbo.SQLBuilder=OLite -Djbo.TypeMapEntries=Oracle |
| DEFAULT_CLIENT_1CLICK | Mobile クライアントの「同期のデフォルト設定を使用する」設定のデフォルト値です。 サンプル値： YES |
| DEFAULT_CLIENT_UPGRADE | Mobile クライアントの「アップグレードする前に問い合わせる」設定のデフォルト値です。 サンプル値： YES |
| DEFAULT_CLIENT_SYNONLY | Mobile クライアントの「オフラインのみ / オンライン / オフライン」設定のデフォルト値です。 サンプル値： YES (オフラインのみを意味します) |

B.2 [FILESYSTEM]

FILESYSTEM パラメータは、Mobile サーバー・リポジトリの動作を制御します。

表 B-2 FILESYSTEM パラメータ

| パラメータ | 定義 |
|-------------------------|--|
| TYPE=O8 | ファイル・システムの種類です。 O8 – Oracle データベースのファイル・システム。 OL – Oracle Lite ベースのファイル・システム。 OS – オペレーティング・システムのファイル・システム。 MIXED – 混在したファイル・システム。 |
| PRIMARY=OL | MIXED モードの場合の主ファイル・システムです。 |
| SECONDARY=OS | MIXED モードの場合の副ファイル・システムです。 |
| ROOT_DIR=e:\webtogo\bin | ルート・ディレクトリです。OS ファイル・システムの場合にのみ有効です。 |
| CACHE_SIZE=10 | O8 ファイル・システムのキャッシュ・サイズです (MB 単位)。このフラグは、システムにメモリーが十分にある場合以外は使用しないでください。 |
| MAX_CONNECTIONS=1 | O8 ファイル・システムの場合のデータベース接続数の最大値です。 |

B.3 [DEBUG]

DEBUG パラメータは、Mobile サーバーのデバッグ・メッセージを制御します。

表 B-3 DEBUG パラメータ

| パラメータ | 定義 |
|------------------------|--|
| ENABLE=YES | デバッグ・モードを使用可能にします。 |
| MACHINE=host | wsh.exe が実行するマシンの名前。Mobile サーバーはこのマシンにデバッグ出力を送信します。 |
| Port=100 | wsh.exe のデバッグ用ポートのアドレスです。 |
| LOG_FILE=c:\temp\t.log | デバッグ・メッセージを記録するログ・ファイルです。 |

B.4 [PUBLIC]

表 B-4 PUBLIC パラメータ

| クラス名 | URL (仮想パス) |
|---------------------------------|---------------|
| myservlet | /virtual path |
| e.g., oracle.code.MyServlet= | /my serolet |

PUBLIC パラメータは、Mobile サーバーの動作を制御します。

B.5 [SERVLET_PARAMETERS]

SERVLET パラメータは、Mobile サーバーの動作を制御します。

表 B-5 SERVLET パラメータ

| パラメータ | 定義 |
|-----------------|---------------------------------|
| MY_VAR=MY_VALUE | すべてのサーブレットがアクセスできるカスタム・パラメータです。 |

B.6 [CONSOLIDATOR]

表 B-6 レプリケーション・パラメータ

| パラメータ | 定義 |
|------------------------|--|
| MAX_THREADS = 3 | MGP プロセスの中で起動されるスレッドの数を指定します。CPU の数以上に指定する必要があります。 |
| TRACE = NO | 高水準トレース情報を出力するかどうかを制御します。 |
| TRACE_ALL = NO | 詳細トレース情報を出力するかどうかを制御します。 |
| TRACE_F = NO | 詳細トレース情報をファイルに書き込むかどうかを制御します。 |
| TEMP = C:¥¥TEMP | トレース・ファイルを書き込むディレクトリを指定します。 |
| MAX_CONNECTIONS = 1000 | 一度にオープンできる JDBC 接続の最大数を設定します。 |
| SLEEP_TIME = 20000 | MGP がクライアント・プロセスの間にスリープする長さ（ミリ秒単位）を指定します。 |
| CONNECTION_POOL = YES | データベース接続のプーリングを有効にします。 |

init.ora での Consolidator 要件

この章では、**init.ora** における、Oracle データベースのパラメータ設定に必要な Consolidator の要件について説明します。

内容は次のとおりです。

- [C.1 項「関連パラメータ同士の関係」](#)
- [C.2 項「PROCESSES および DML_LOCKS の値」](#)

C.1 関連パラメータ同士の関係

次の `init.ora` のパラメータは、ここで示すとおりに設定する必要があります。

表 C-1 パラメータの設定

| パラメータ | 設定 |
|--------------|--|
| PROCESSES | デフォルト値は 59 ~ 200 です。 |
| SESSIONS | デフォルト値は、次のとおりです。 導出式: $1.1 * PROCESSES + 5$ |
| TRANSACTIONS | デフォルト値は、次のとおりです。 導出式: $(1.1 * SESSIONS)$ |
| DML_LOCKS | デフォルト値は、次のとおりです。 導出式: $(4 * TRANSACTIONS)$ |

C.2 PROCESSES および DML_LOCKS の値

PROCESSES および DML_LOCKS の値をチェックします。大規模な同期操作が同時に実行されると、最大量のリソースが消費されます。各同時クライアントに対して、Consolidator はデータベース接続を 1 つ (1 つのセッションと 1 つのトランザクション) 必要とします。したがって、PROCESSES の値は同時クライアントの最大数以上に設定する必要があります。

同期時に、Consolidator はパブリケーション・マップ表を変更します。各クライアントと変更されるパブリケーションに 1 つの DML ロックが必要です。

$DML_LOCKS = (\text{変更されるパブリケーション数}) * (\text{同時クライアントの最大数})$

1 回目と 2 回目の同期の間に、各クライアントのすべてのパブリケーション・マップ表が変更されます。したがって、DML ロックの必要数は次のようになります。

$DML_LOCKS = (\text{パブリケーション数}) * (\text{同時クライアントの最大数})$

パブリケーション数が多い場合、デフォルトの DML_LOCKS では不足する可能性があります。init.ora で明示的に設定する必要があります。たとえば、CRM には約 50 のパブリケーションがあるものとします。1 回目の同時同期が 30 の場合、Consolidator は 1500 の DML ロックを必要とします。PROCESSES が 200 に設定された DML_LOCKS のデフォルト値は 1000 です。

Secure Sockets Layer (SSL) のサポート

この章では、Mobile サーバーでサポートされる Secure Sockets Layer (SSL) 通信プロトコルについて説明します。SSL とは、インターネット上で通信のプライバシーを守るセキュリティ・プロトコルです。このプロトコルを使用すると、クライアント / サーバー・アプリケーションは盗聴、改ざんまたはメッセージの偽造を防止するように設計された方法で通信できます。セキュリティで保護された通信を、Mobile サーバーと Mobile クライアントの間で HTTPS を使用して確立できます。

SSL モードで Mobile サーバーを実行するには、Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) または Apache Server 内のモジュールとして Mobile サーバーを実行する必要があります。Oracle9iAS または Apache Server 内のモジュールとして Mobile サーバーを実行する方法の詳細は、『Oracle9i Lite インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

D.1 サーバー側の構成

Mobile サーバーで SSL を使用できるようにする主な手順は、次のとおりです。

1. Mobile サーバーを SSL 対応に構成します。
2. Mobile サーバーを SSL モードで実行します。
3. CA 証明書をアップロードします。

Oracle9iAS または Apache のモジュールとして実行している Mobile サーバーのみが、SSL をサポートします。Oracle9iAS または Apache とともに実行している SSL モードの Mobile サーバーには、ブラウザから接続できます。

SSL モードで Mobile サーバーを実行するには、次の項の説明に従ってシステムを構成する必要があります。

D.1.1 スタンドアロン・モードの Mobile サーバー

スタンドアロン・モードで実行する Mobile サーバーは、SSL をサポートしません。`webtogo.ora` で `SSL=YES` と設定すると、Mobile サーバーは動作しません。

スタンドアロンの実行モードでは、ブラウザから SSL モードの Mobile サーバーに接続しようとしても Mobile サーバーには接続できません。

D.1.2 Oracle9iAS と Apache Server の構成

Oracle9iAS ではあらかじめ SSL サポートが構成されていますが、Apache Server を使用する場合は SSL をサポートするオープン SSL モジュールがあることを確認してください。Oracle9iAS または Apache Server をオープン SSL とともにインストールした後、`httpd.conf` ファイルに次のエントリがあることを確認してください。

注意： 次のエントリは Oracle9iAS のデフォルト構成です。これを確認する必要があります。詳細は、Oracle9i Application Server のインストール・ガイドを参照してください。

```
##
## SSL Support
##
## When we also provide SSL we have to listen to the
## standard HTTP port (see above) and to the HTTPS port
##

Listen 80
Listen 443

# SSL Engine Switch:
# Enable/Disable SSL for this virtual host.
SSLEngine on

# SSL Cipher Suite:
# List the ciphers that the client is permitted to negotiate.
# See the mod_ssl documentation for a complete list.
# SSLCipherSuite ALL:!ADH:RC4+RSA:+HIGH:+MEDIUM:+LOW:+SSLv2:+EXP:+eNULL

# Server Certificate:
# Point SSLCertificateFile at a PEM encoded certificate. If
# the certificate is encrypted, then you will be prompted for a
# pass phrase. Note that a kill -HUP will prompt again. A test
# certificate can be generated with `make certificate' under
# built time. Keep in mind that if you've both a RSA and a DSA
# certificate you can configure both in parallel (to also allow
# the use of DSA ciphers, etc.)
SSLCertificateFile %conf%ssl.crt%server.crt

# Server Private Key:
# If the key is not combined with the certificate, use this
# directive to point at the key file. Keep in mind that if
# you've both a RSA and a DSA private key you can configure
# both in parallel (to also allow the use of DSA ciphers, etc.)
SSLCertificateKeyFile conf%ssl.key%server.key
```

注意： Oracle*9i*AS には、自己署名されているテスト用のサーバー証明書「server.crt」とその秘密鍵「server.key」があります。この証明書は単なるテスト用の証明書です。信頼できる認証局により署名された独自のサーバー証明書を取得する必要があります。信頼できる認証局が署名した証明書で「server.crt」を置き換えた後、Mobile サーバー・コントロール・センターにアクセスしてこの証明書を Mobile サーバー・リポジトリにアップロードします。

D.1.3 Mobile サーバー構成

SSL モードで Mobile サーバーを実行するには、**webtogo.ora** 構成ファイルの WEBTOGO セクションに SSL 構成パラメータを追加し、その値を次のように設定します。

```
[WEBTOGO]
# ssl mode
SSL=YES
```

D.1.4 CA 証明書の設定

Mobile サーバーを SSL 対応に構成した後、SSL モードで実行しているときに、SSL の CA 証明書を Mobile サーバー・リポジトリにアップロードする必要があります。Mobile サーバー・コントロール・センターから CA 証明書を設定するには、Oracle9iAS または Apache Server の SSL 通信に使用するサーバー証明書を Mobile サーバー・リポジトリにアップロードします。

CA 証明書をアップロードするには、Mobile サーバー・コントロール・センターに進み、「サーバー」タブで「サーバーの証明書」をクリックし、CA 証明書をアップロードします。

D.2 クライアント側の構成

クライアント側の構成の場合は、Mobile クライアントと Mobile サーバー間に SSL 接続を確立できます。ただし、Oracle9i Lite はブラウザと Web-to-Go 用 Mobile クライアント間の SSL 接続はサポートしません。

D.2.1 Mobile クライアントと Mobile サーバーの間の通信

Web-to-Go 用 Mobile クライアントと Mobile サーバー間の SSL 通信には 2 通りの構成があります。どちらの構成にするかは、SSL モードで実行している Mobile サーバーから Web-to-Go 用 Mobile クライアントをダウンロードするかどうかによって決まります。

`https://<mobile_server_name>/setup` の URL から Web-to-Go 用 Mobile クライアントをダウンロードする場合は、Web-to-Go 用 Mobile クライアントは自動的に SSL 対応に構成され、手動で構成する必要はありません。Mobile クライアントは SSL を介して Mobile サーバーと通信できます。

SSL モードで実行している Mobile サーバーから Web-to-Go 用 Mobile クライアントをダウンロードしない場合は、クライアント側の構成ファイル **webtogo.ora** にある SERVERURL パラメータを次のように変更する必要があります。

```
SERVERURL=https://<mobile_server_name>:<port_number>/webtogo
```

注意： Mobile サーバーのデフォルト・ポート番号は 443 です。Mobile サーバーがポート番号 443 で実行されている場合は、Mobile サーバーのポート番号を URL に指定する必要はありません。Mobile サーバーが番号 443 以外のポート上で実行されている場合は、次のように Mobile サーバーのポート番号を URL に指定する必要があります。

```
https://<mobile_server_name>:<port_number>/setup
```

D.2.2 ブラウザと Web-to-Go 用 Mobile クライアント間の接続

ブラウザから SSL モードで Web-to-Go 用 Mobile クライアントに接続しようとした場合、次の 2 つの条件がともに成立しても Mobile クライアントには接続できません。

1. Mobile サーバーが、Oracle9iAS または Apache のモジュールとして SSL モードで実行していること。
2. Web-to-Go 用 Mobile クライアントも、SSL モードで実行していること。

この場合、クライアントとサーバーの間の通信は HTTPS（すなわち SSL）を使用していますが、ブラウザから Web-to-Go 用 Mobile クライアントに接続するクライアント URL には HTTPS ではなく HTTP を指定する必要があります。

たとえば、次のように指定します。

```
http://<client machine>/webtogo
```

D.3 非 SSL の Mobile クライアントのサポート

Mobile サーバーが SSL モードで実行している場合、SSL モードまたは非 SSL モードで Mobile クライアントと同期できます。ただし、Web-to-Go 用 Mobile クライアントの場合は、SSL モードの Mobile サーバーと同期するにはクライアントも SSL モードで実行している必要があります。

SSL モードで実行している Mobile サーバーは、非 SSL モードの Mobile クライアントもサポートできます。多くの Mobile クライアントでは SSL がサポートされていないためです。

注意： SSL クライアントおよび非 SSL クライアントをサポートするには、Mobile サーバーは Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) または Apache Server の SSL ポートと非 SSL ポートの両方で実行する必要があります。また、デフォルトでは、Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) または Apache Server は SSL ポートと非 SSL ポートの両方で実行するように構成されています。

Mobile サーバーのスクリプト言語

この章では、Mobile サーバーのスクリプト言語について説明します。スクリプトを使用して、頻繁に実行する管理作業をバッチ処理できます。Mobile サーバー用のスクリプトを INI テキスト・ファイルにコーディングし、WSH ツールを使用してその INI スクリプトを実行します。

スクリプトを使用して、ユーザー、グループ、アクセス権、レジストリのエントリおよびスナップショット変数を作成、変更および削除できます。内容は次のとおりです。

- [E.1 項「構文の説明」](#)
- [E.2 項「スクリプト INI ファイルの実行方法」](#)
- [E.3 項「例」](#)

E.1 構文の説明

スクリプトでは、次のパラメータおよび構文を使用します。

ユーザーの作成：

ユーザーを作成する構文は、次のとおりです。

```
[USER]
NAME=< ユーザー名 >
PASSWORD=< パスワード >
ENCRYPTED=< True または False。パスワードが暗号化されている場合は True、されていない場合は False >
FULLNAME=< フルネーム >
PRIVILEGE=< 権限レベル。P、C、S または null >
```

PRIVILEGE の値の設定には、4 通りのオプションがあります。オプションは次のとおりです。

- P – アプリケーションをパブリッシュする権限。
- C – Web-to-Go に接続する権限。
- S – Web-to-Go を管理する権限。
- NULL – 権限はありません。

グループの作成：

このエントリは、(このグループが既存のものでない場合) 新規のグループを作成し、リストされているユーザーをそのグループに追加します。このエントリを使用して既存のグループの名前を指定した場合、既存のグループに含まれるすべてのユーザーが削除されて、リストされているユーザーがそのグループに追加されます。

既存のグループにユーザーを追加する場合は、[ADDUSERTOGROUP] を使用する必要があります。

グループを作成する構文は、次のとおりです。

```
[GROUP]
NAME=< グループ名 >
USER=< グループに追加するユーザー名 >
USER=< グループに追加するユーザー名 >
USER=< グループに追加するユーザー名 >
```

グループへのユーザーの追加：

このエントリは、（このグループが既存のものでない場合）新規のグループを作成し、リストされているユーザーをそのグループに追加します。既存のグループにユーザーを追加するときも、このエントリを使用できます。

```
[ADDUSERTOGROUP]
NAME=< グループ名 >
USER=< グループに追加するユーザー名 >
USER=< グループに追加するユーザー名 >
```

グループからのユーザーの削除：

リストされているユーザーを指定したグループから削除します。

```
[REMOVEUSERFROMGROUP]
NAME=< グループ名 >
USER=< グループから削除するユーザー名 >
USER=< グループから削除するユーザー名 >
```

アクセス権の作成：

新規の ACL を作成します（この ACL が既存のものでない場合）。この ACL を作成した後、すべての既存ユーザーが削除され、リストされているユーザーがその ACL に追加されます。既存の ACL にユーザーを追加する場合は、[GRANTACCESS] を使用する必要があります。

ユーザーやグループにアクセス権を作成する構文は、次のとおりです。

```
[ACL]
APPLICATION=<ACL を作成するアプリケーション名 >
ROLE=< ユーザーのロール。DEFAULT ROLE または ADMINISTRATIVE ROLE を設定 >
USER=< ユーザー名 >
ACCESS=< アクセス・ステータスを ENABLED に設定 >
ROLE=< ユーザーのロール >
USER=< ユーザー名 >
ACCESS=< アクセス・ステータスを ENABLED に設定 >
ROLE=< グループのロール >
GROUP=< グループ名 >
ACCESS=< アクセス・ステータスを ENABLED に設定 >
```

アクセス権の付与：

このエント리는、(この ACL が既存のものでない場合) 新規の ACL を作成し、リストされているユーザーをその ACL に追加します。

```
[GRANTACCESS]
APPLICATION=<ACL を追加するアプリケーション名 >
ROLE=< ユーザーのロール >
USER=< ユーザー名 >
ACCESS=< アクセス・ステータス。ENABLED または DISABLED >
ROLE=< グループのロール >
GROUP=< グループ名 >
```

アクセス権の取消し：

このエント리는、リストされているユーザーを指定した ACL から削除します。

```
[REVOKEACCESS]
APPLICATION=<ACL を取り消すアプリケーション >
ROLE=< ユーザーのロール >
USER=< ユーザー名 >
ACCESS=< アクセス・ステータス >
ROLE=< グループのロール >
GROUP=< グループ名 >
```

レジストリの作成：

レジストリを作成する構文は、次のとおりです。

```
[REGISTRY]
APPLICATION=< アプリケーション名 >
NAME=< レジストリ変換名 >
VALUE=< 変数値 >
```

スナップショット変数の作成：

スナップショット変数を作成する構文は、次のとおりです。

```
[SNAPSHOTVAR]
NAME=< パブリケーション項目名 >
PLATFORM=< パブリケーション項目のプラットフォーム >
VIRTUALPATH=< パブリケーション項目が属しているアプリケーションの仮想パス >
USER=< アプリケーションに登録するユーザー名 >
VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >
USER=< アプリケーションに登録するユーザー名 >
VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >
GROUP=< アプリケーションに登録するグループ名 >
VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >
```

ユーザーの削除：

ユーザーを削除する構文は、次のとおりです。

```
[DROPUSEr]
NAME=< ユーザー名 >
```

グループの削除：

グループを削除する構文は、次のとおりです。

```
[DROPGROUPl]
NAME=< グループ名 >
```

アクセス権の削除：

ユーザーやグループのアクセス権を削除する構文は、次のとおりです。

```
[DROPAcl]
APPLICATION=< ACL を削除するアプリケーション名 >
ROLE=< ユーザーのロール。DEFAULT ROLE または ADMINISTRATIVE ROLE を設定 >
USER=< ユーザー名 >
ACCESS=< アクセス・ステータスを DISABLED に設定 >
ROLE=< ユーザーのロール。DEFAULT ROLE または ADMINISTRATIVE ROLE を設定 >
GROUP=< グループ名 >
ACCESS=< アクセス・ステータスを DISABLED に設定 >
```

レジストリの削除：

レジストリを削除する構文は、次のとおりです。

```
[DROPREGISTRY]
APPLICATION=< アプリケーション名 >
NAME=< レジストリ変数名 >
VALUE=< 変数値 >
```

スナップショット変数の削除：

スナップショット変数を削除する構文は、次のとおりです。

```
[DROPSNAPSHOTVAR]
NAME=< パブリケーション項目名 >
PLATFORM=< パブリケーション項目のプラットフォーム >
VIRTUALPATH=< パブリケーション項目が属しているアプリケーションの仮想パス >
USER=< アプリケーションに登録するユーザー名 >
VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >
USER=< アプリケーションに登録するユーザー名 >
VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >
GROUP=< アプリケーションに登録するグループ名 >
VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >
```

E.2 スクリプト INI ファイルの実行方法

WSH を使用してスクリプト INI ファイルを実行するには、次のコマンドを使用します。

```
WSH -c <filename.ini> mobileadmin/manager@webtogo.world
```

E.3 例

この項では、INI 形式のスクリプト・ファイルの例をいくつか示します。

E.3.1 アクセス権の作成、追加および付与

次の例では、ユーザー、グループ、レジストリ、アクセス権限および snapshotvar テンプレート変数を作成し、グループにユーザーを追加し、ACL にユーザーを追加する方法を示します。

```
[DATABASE]
TYPE=ORACLE

#Creation or modification of users, groups, access privileges, registry,
and snapshot variable entries using the following entries in the INI file:
#[USER], [GROUP], [ACL], [REGISTRY],[SNAPSHOTVAR].

# Create user JOHN
#
[USER]
NAME=JOHN
PASSWORD=john
ENCRYPTED=false
FULLNAME=Sample1 User John
PRIVILEGE=C

#
# Create group 'Sample Users' containing JANE, JOHN, JACK
#
[GROUP]
NAME=Sample Users
USER=JANE
USER=JOHN
USER=JACK

#
# Set the ACL on the sample3 application.
# The following gives John, Jane, and Jack, plus all the users in the
group
# Sample Users access to the application
#
```



```
[ACL]
APPLICATION=/sample3
ROLE=Default Role
USER=JOHN
ACCESS=ENABLED
ROLE=Default Role
USER=JANE
ACCESS=ENABLED
ROLE=Default Role
USER=JACK
ACCESS=ENABLED
ROLE=Default Role
GROUP=Sample Users
ACCESS=ENABLED

#
# Add registry entry for user JOHN and a default value for the Sample3
application to the Web-to-go Repository
#
[REGISTRY]
APPLICATION=/sample3
USER=JOHN
NAME=USERCODE
VALUE=1111

#
# Add template variables.
# You can specify user/group specific values for these variables
#
[SNAPSHOTVAR]
NAME=RECORDINGS
PLATFORM=WIN32
VIRTUALPATH=/sample3
USER=JOHN
VAR=CODE, 1111
USER=JACK
VAR=CODE, 1111
USER=JANE
VAR=CODE, 2222
GROUP=Sample Users
VAR=CODE, 2222

#
#Add users to a group.
#
[ADDUSERTOGROUP]
NAME=Sample Users
```

```
USER=USER1
USER=USER2

#
#Grant Access to users.
#
[GRANTACCESS]
APPLICATION=/sample3
ROLE=Default Role
USER=USER1
ACCESS=ENABLED
ROLE=Default Role
USER=USER2
ACCESS=ENABLED
ROLE=Default Role
GROUP=Sample Users
```

E.3.2 アクセス権の削除および取消し

次の例では、ユーザー、グループ、レジストリおよび snapshotvar を削除し、グループからユーザーを削除し、アクセス権を取り消す方法を示します。

```
#Deletion of users, groups, access privileges, registry and snapshot
variable entries using the following entries in
#the INI file:
#[DROPUSE], [DROPGROUP], [DROPA], [DROPREGISTRY], [DROPSNAPSHOTVAR].

#
# Dropuser JOHN
#
[DROPUSE]
NAME=JOHN

#
# Drop group 'Sample Users'
#
[DROPGROUP]
NAME=Sample Users

#
# Drop the ACL on the sample3 application.
#
[DROPA]
APPLICATION=/sample3
ROLE=Default Role
USER=JOHN
ACCESS=DISABLED
```

```
ROLE=Default Role
GROUP=Sample Users
ACCESS=DISABLED

#
# Drop registry entry for user JOHN from Sample3 application.
#
[DROPREGISTRY]
APPLICATION=/sample3
USER=JOHN
NAME=USERCODE

#
# Drop template variables for user JOHN and group 'Sample Users'
#
[DROPSNAPSHOTVAR]
NAME=RECORDINGS
PLATFORM=WIN32
USER=JOHN
VAR=CODE, 1111
GROUP=Sample Users
VAR=CODE, 2222

#
#Remove users from a group.
#
[REMOVEUSERFROMGROUP]
NAME=Sample Users
USER=USER1
USER=USER2

#
#Revoke access.
#
[REVOKEACCESS]
APPLICATION=/sample3
ROLE=Default Role
USER=USER1
ACCESS=DISABLED
ROLE=Default Role
USER=USER2
ACCESS=DISABLED
ROLE=Default Role
GROUP=Sample Users
```

プロキシ・サーバーのバイパス

「管理者」アクセス権を付与されているユーザーは、プロキシ・サーバー経由で Mobile サーバーに接続しないでください。Mobile サーバーはクライアント・マシンの IP アドレスを参照できないので、「管理者」レベルのアクセスを許可できません。

「管理者」アクセス権を持ち、通常はプロキシ・サーバー経由でネットワークに接続しているユーザーは、Mobile サーバーに接続する前にプロキシ・サーバーをバイパスする必要があります。

プロキシ・サーバーをバイパスするようにクライアント・マシンを構成するには、次の手順を実行します。

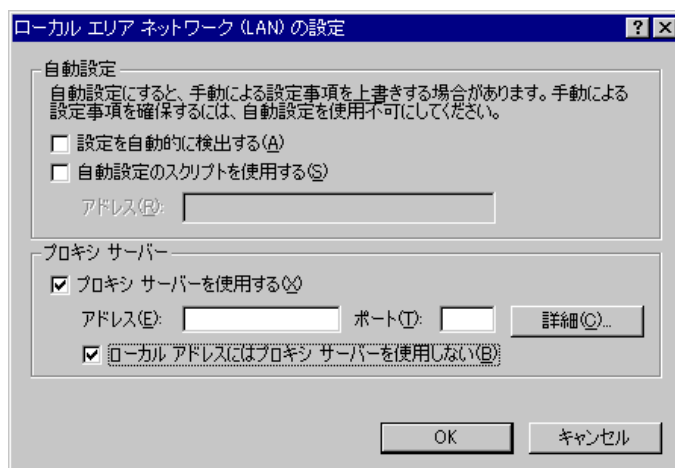
1. Internet Explorer で、「ツール」メニューから「インターネット オプション」を選択します。「インターネット オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「接続」タブを選択します。「接続」パネルが表示されます (図 F-1)。

図 F-1 「接続」タブ



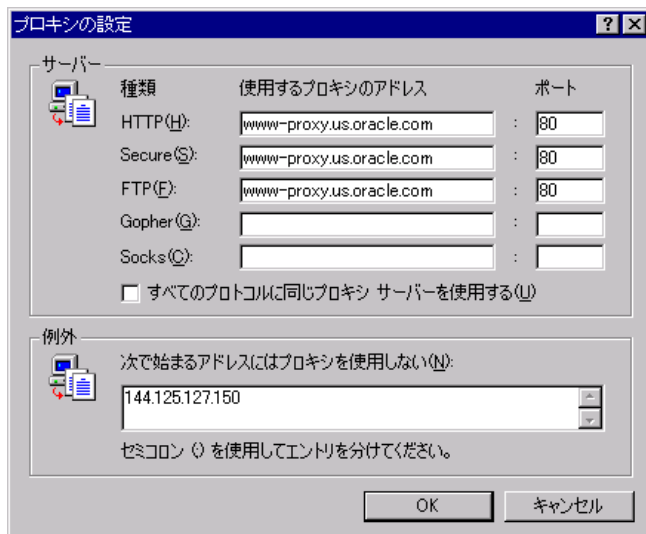
1. 「接続」パネルの「LAN の設定」ボタンをクリックします。「ローカルエリア ネットワーク (LAN) の設定」ダイアログ・ボックスが表示されます (図 F-2)。

図 F-2 ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定



2. 「ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない」チェックボックスを選択します。
3. 「詳細」ボタンをクリックします。「プロキシの設定」ダイアログ・ボックスが表示されます (図 F-3)。

図 F-3 「プロキシの設定」ダイアログ・ボックス



- 「例外」セクションで、「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない:」の下のフィールドに、Mobile サーバーの IP アドレスを入力します (図 F-3)。
- 「OK」をクリックします。

この付録では、外部認証の使用方法について説明します。

G.1 外部認証の使用

Mobile ユーザーが Mobile サーバーにログインすると、入力されたパスワードが Mobile サーバー・リポジトリ内のそのユーザーのパスワードと比較されます。パスワードが一致すると、そのユーザーは認証されていると見なされて Mobile サーバーへのアクセスが許可されます。

パスワードを格納したリポジトリを使用するかわりに、Mobile サーバーは外部認証機能を使用してユーザーのパスワードを検証できます。ユーザーがログインすると、Mobile サーバーはユーザー名とパスワードを外部認証機能に渡して検証を行います。検証が正常終了すると、ユーザーは Mobile サーバーにアクセスできます。

Mobile サーバーを構成すると、複数の外部認証機能を使用できます。Mobile サーバーは、指定された順序で外部認証機能をコールします。外部認証機能の1つがユーザー名とパスワードの組合せの検証を正常終了すると、そのユーザーは認証されていると見なされて Mobile サーバーへのアクセスが許可されます。その他の外部認証機能はコールされません。外部認証機能がユーザー名とパスワードの組合せの検証に失敗した場合、そのユーザーは Mobile サーバーへのアクセスを拒否されます。外部認証を使用するには、次の操作が必要です。

1. 外部認証機能を Java クラスとして構築します。このクラスは、Java インタフェース `oracle.lite.web.spi.ExternalAuthenticator` を実装する必要があります。
2. Mobile サーバー・コントロール・センターでは、Mobile ユーザーを作成しても、このユーザーに対するパスワードは作成しないでください。Mobile サーバーは、Mobile サーバー・リポジトリにパスワードが指定されていないユーザーにのみ外部認証を使用します。
3. 外部認証を使用するように Mobile サーバーを構成します。認証クラスの名前を、Mobile サーバーの構成ファイル `webtogo.ora` の `[EXTERNAL_AUTHENTICATION]` セクションに指定する必要があります。たとえば、構成ファイルの `[EXTERNAL_AUTHENTICATION]` セクションに次のようなエントリを追加すると、Mobile サーバーは起動時に指定された認証クラスをロードします。

```
CLASS=class1,class2,class3
```

注意： すべてのクラスがシステムのクラス・パスに指定されている必要があります。

G.2 外部認証コードの例

次のコード例は、インタフェース `oracle.lite.web.spi.ExternalAuthenticator` に対する Oracle Internet Directory サーバーなどの LDAP 実装です。

コード例:

```
import javax.naming.*;
import javax.naming.directory.*;
import com.sun.jndi.ldap.*;
import com.sun.jndi.toolkit.url.*;
import java.util.*;

public class AuthenticateJNDIUser implements
oracle.lite.web.spi.ExternalAuthenticator
{

    public AuthenticateJNDIUser()
    {
        super();
    }

    public void init()
    {
        System.out.println("Into init");
    }

    public Object authenticateUser(String uname, String pass)
    {

        try
        {
            System.out.println("Into AuthUser");
            Hashtable env = new Hashtable();
            env.put(Context.INITIAL_CONTEXT_FACTORY,
                "com.sun.jndi.ldap.LdapCtxFactory");

            System.out.println("Into AuthUser1"+ " uname"+uname+"
pass"+pass);
            String ATTRS[] = {"cn","mail"};

            env.put(Context.SECURITY_AUTHENTICATION, "simple");
            env.put(Context.SECURITY_PRINCIPAL, "uid="+uname+", ou=People,
o=us.oracle.com");
            env.put(Context.SECURITY_CREDENTIALS, pass);
            env.put(Context.PROVIDER_URL,
```

```

"ldap://ssinghan-pc2.us.oracle.com:389");
    System.out.println("Into AuthUser1");

    DirContext ctx = new InitialDirContext(env);
    System.out.println("Got InitialDirContext Successfully");
    SearchControls constraints = new SearchControls();
    constraints.setSearchScope(SearchControls.SUBTREE_SCOPE);

    NamingEnumeration results =
ctx.search("o=us.oracle.com", "uid="+uname, constraints);
    if (results ==null )
    {
        System.out.println("Null returned");
        return null;
    }

    while(results !=null && results.hasMore())
    {
        SearchResult sr = (SearchResult)results.next();
        String dn = sr.getName()+" , o=us.oracle.com";
        System.out.println("Name"+dn);
        Attributes ar = ctx.getAttributes(dn,ATTRS);

        if (ar!= null)
        {
            for(int i=0;i<=ATTRS.length-1;++i)
            {
                System.out.println(ATTRS[i] + " : "
+ar.get (ATTRS[i]));
            }
        }
        return ((Object)("Valid User"));
    }
    catch (javax.naming.NamingException ne)
    {
        System.err.println("NamingException : " + ne.getMessage());
        System.err.println("getRootCause"+ne.getRootCause());
        System.err.println("getExplanation"+ne.getExplanation());
        ne.printStackTrace();
        return null;
    }
}

```

```
public void logOff(String uname)
{ System.out.println("Into logOff : "+ uname); }

public void destroy(){ System.out.println("Into destroy123"); }
}
```

用語集

3 層 Web モデル (Three-Tier Web Model)

クライアント、中間層およびサーバーを含むインターネット・データベース構成。Web-to-Go アーキテクチャは 3 層 Web モデルに準拠しています。

Apache Server

National Center for Supercomputing Applications (NCSA) から発表されたパブリック・ドメインの HTTP サーバー。

Java Servlet Development Kit

Java サープレットの開発のために JavaSoft 社が提供しているツール。

Java Web Server Development Kit

Java Web Server Development Kit 1.0.1 は、JavaServer Pages (JSP) と Java サープレットの開発のために JavaSoft 社が提供しているツールです。

JavaServer Pages (JSP)

JavaServer Pages (JSP) とは、開発者がページの基になるコンテンツを変更せずにページのレイアウトを変更できるようにするテクノロジーです。JSP は HTML と Java コードを使用し、動的コンテンツとビジネス・ロジックを結び付けたプレゼンテーションを可能にします。

Java アプレット (Java Applets)

ブラウザで実行される小規模なアプリケーションで、動的コンテンツを追加することにより HTML ページの機能を拡張します。

Java サープレット (Java Servlets)

Java で作成されているプロトコルで、プラットフォームに依存しないサーバー側コンポーネント。Java サープレットは Java 対応のサーバーを動的に拡張し、要求 - 応答方式を使用して作成されたサービスのための汎用フレームワークを提供します。

JDBC

Java Database Connectivity (JDBC) は Java クラスの標準セットで、リレーショナル・データに対してベンダーに依存しないアクセスを提供します。JDBC クラスは ODBC をモデルにしたもので、複数データベースへの同時接続、トランザクション管理、単純問合せ、バインド変数によるコンパイル済み文の操作、ストアド・プロシージャへのコールなどの標準機能を提供します。JDBC では、静的 SQL と動的 SQL の両方がサポートされます。

MIME

Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME) とは、メッセージの内容を記述するためにインターネット上で使用されるメッセージ形式です。MIME は、HTTP サーバーが配布対象ファイルのタイプを記述するために使用します。

MIME タイプ (MIME Type)

Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME) により定義されているファイル形式。

Mobile Development Kit (Web-to-Go 用) (Mobile Development Kit for Web-to-Go)

Mobile Development Kit (Web-to-Go 用) を使用すると、アプリケーション開発者は、Java サブレット、JavaServer Pages (JSP) または Java アプレットで構成される Web-to-Go アプリケーションの開発とデバッグを行えます。

Mobile サーバー (Mobile Server)

Mobile サーバーは、Mobile サーバー 3 層モデルのアプリケーション・サーバー層に常駐し、Mobile クライアントからの変更要求を処理してデータベース・サーバー内のデータを変更します。

Mobile サーバー・リポジトリ (Mobile Server Repository)

Mobile サーバー・リポジトリとは、Oracle データベースに常駐する仮想ファイル・システムです。このリポジトリは、すべてのアプリケーション・ファイルとアプリケーション定義を含む永続リソース・リポジトリです。

ODBC

Open Database Connectivity (ODBC) は Microsoft 社の標準で、様々なプラットフォーム上のデータベース・アクセスを可能にします。Web-to-Go 用 Mobile クライアント上では、トラブルシューティング用に ODBC サポートを使用可能にします。ODBC サポートを使用すると、ローカルの Oracle Lite データベースに格納されているクライアントのデータを表示できます。この情報を表示するには、Mobile SQL を使用します。

Oracle Lite

Oracle Lite は、Web-to-Go 用 Mobile クライアントのデータベース・コンポーネントです。クライアントがオフライン・モードのときは、アプリケーションとデータは Oracle Lite に格納されます。

Oracle データベース

Oracle データベースは、Mobile サーバーのデータベース・コンポーネントです。Web-to-Go 用 Mobile クライアントがオンライン・モードのときは、アプリケーションとデータは Oracle データベースに格納されます。

SQL

Structured Query Language (SQL) は、リレーショナル・データベース・エンジンのほとんどで使用される非手続き型データベース・アクセス言語です。SQL 文はデータ・セットに対して実行される操作を記述します。SQL 文がデータベースに送られると、データベース・エンジンは指定されたタスクを実行するプロシージャを自動的に生成します。

Web-to-Go

Oracle Web-to-Go は、Web ベースのモバイル・データベース・アプリケーションを作成および配置するためのフレームワークです。Web-to-Go には、Web-to-Go 用 Mobile クライアント、Mobile サーバーおよび Oracle データ・サーバーで構成される 3 層データベース・アーキテクチャが含まれます。サーバーから一元管理され、Web-to-Go アプリケーションは Web-to-Go がサーバーに接続されたとき (オンライン) またはサーバーから切断されたとき (オフライン) に実行できます。オフラインのときは Web-to-Go はデータをローカルにキャッシュし、オンラインに戻ったときにそのデータをサーバーと同期します。

Web-to-Go 用 Mobile クライアント (Mobile Client for Web-to-Go)

Web-to-Go 用 Mobile クライアントは、Web-to-Go の 3 層 Web モデルのクライアント層です。Mobile サーバーと Oracle Lite データベースが含まれます。オフライン・モードに切り替わると、Web-to-Go はユーザーのアプリケーションとデータを Oracle Lite にレプリケートします。オンラインに戻ると、Web-to-Go はデータの変更を Oracle データベースにレプリケートします。

WINDOW シーケンス (Window Sequence)

Web-to-Go がサポートする 2 つの順序のうちの一つで、オフライン・モードの Web-to-Go 用 Mobile クライアントに対して一意の主キー値を提供するために使用されるもの。WINDOW シーケンスには、一意の値範囲が含まれます。他のクライアントと値の範囲は重複しません。クライアントが順序の範囲内の値をすべて使用すると、Web-to-Go は新しい一意の値範囲を持つ順序を再び作成します。

一意キー (Unique key)

表の一意キーは、表の各列での一意の列または列グループです。UNIQUE KEY 制約を満たすには、一意キーの値が表の複数の行に出現することはできません。ただし、PRIMARY KEY 制約とは異なり、単一列からなる一意キーは NULL 値を含むことができます。

位置付け DELETE (Positioned DELETE)

位置付け DELETE 文により、カーソルの現在行が削除されます。書式は次のとおりです。

```
DELETE FROM table
WHERE CURRENT OF cursor_name
```

位置付け UPDATE (Positioned UPDATE)

位置付け UPDATE 文により、カーソルの現在行が更新されます。書式は次のとおりです。

```
UPDATE table SET set_list
    WHERE CURRENT OF cursor_name
```

オフライン・モード (Offline Mode)

Web-to-Go 用 Mobile クライアントが Mobile サーバーから切断されている状態。オフライン・モードでは、クライアント・アプリケーションはローカルに実行され、データは Oracle Lite でアクセスおよび格納されます。「オンライン・モード (Online Mode)」も参照。

オンライン・モード (Online Mode)

Web-to-Go 用 Mobile クライアントが Mobile サーバーに接続されている状態。「オフライン・モード (Offline Mode)」も参照。

外部キー (Foreign Key)

外部キーとは表またはビューに存在する列または列グループのことで、その値は別の表またはビューに存在する行を参照します。外部キーには、一般に、別の表の主キー値と一致する値が含まれます。「主キー (Primary Key)」も参照。

結合 (Join)

2 つの異なる表またはビューに存在するキー (主キーと外部キーの両方) の間に確立された関係。結合は、リレーショナル・データベース内の重複したデータを排除するために正規化された表のリンクに使用します。結合リンクの一般的なものとしては、1 つの表の主キーを別の表の外部キーにリンクして、マスター・ディテール・リレーションを確立するものがあります。結合は SQL 文の WHERE 句条件に対応します。

コントロール・センター (Control Center)

Mobile サーバー・コントロール・センターはブラウザ内で実行される Mobile アプリケーションで、これを使用するとアプリケーションとそのユーザーの管理が容易になります。管理者はコントロール・センターを使用して、ユーザーまたはグループに対するアクセス権の付与と取消し、スナップショット・テンプレート変数の変更、Mobile サーバーからのアプリケーションの削除などの機能を実行します。

サイト (Site)

Web-to-Go は、Web-to-Go 用 Mobile クライアント上の各ユーザーに対してデータベースを作成します。このデータベースはサイトと呼ばれます。1 つのクライアントに複数のサイトを含められますが、サイトは 1 人のユーザーに 1 つのみ可能です。ユーザーは、異なるクライアント上に複数のサイトを所有できます。

索引 (Index)

表内のそれぞれの行に対する高速アクセスを提供するデータベース・オブジェクト。索引を作成すると、表のデータに対して実行される問合せおよびソート操作を高速化できます。また、索引を使用して、UNIQUE KEY 制約や PRIMARY KEY 制約などの制約を表に対して規定することもできます。

索引はいったん作成されると自動的にメンテナンスされ、データベース・エンジンにより可能なかぎりデータ・アクセスのために使用されます。

参照整合性 (Referential Integrity)

参照整合性は、レコードが追加、修正または削除されたときにメンテナンスされるマスター・ディテール・リレーション内の表間のリンクの精度として定義されます。

マスター・ディテール・リレーションを注意深く定義しておくことにより、参照整合性が高まります。データベース内の制約によって、データベース (クライアント / サーバー環境でのサーバー) レベルの参照整合性が規定されます。

参照整合性の目的は、孤立したレコード (マスター・レコードとの有効なリンクを持たないディテール・レコード) が作成されないようにすることです。参照整合性を規定する規則により、結果として孤立したレコードを作成するような、マスター・レコードの削除や更新、またはディテール・レコードの挿入や更新を予防できます。

シノニム (Synonym)

表、ビュー、順序、スナップショットまたは別のシノニムに対する代替名 (エイリアス)。

主キー (Primary Key)

表の主キーは、表内の各行を一意に識別するのに使用される 1 つの列または列グループです。主キーを使用すると表のレコードにすばやくアクセスできます。また主キーは 2 つの表またはビューの間の結合の基礎として頻繁に使用されます。それぞれの表に対して主キーは 1 つしか定義できません。

PRIMARY KEY 制約を満たすには、主キー値が表の 2 つ以上の列で使用されたり、主キーの一部の列に NULL 値が含まれないようにします。

順序 (Sequence)

順次数を生成するスキーマ・オブジェクト。順序を作成した後は、これを使用してトランザクション処理用の一意の順次数を生成できます。これらの一意の整数には、主キー値を含むことができます。トランザクションで順序番号が生成される場合、トランザクションをコミットしたかロールバックしたかにかかわらず順序が即時増分されます。「[WINDOW シーケンス \(Window Sequence\)](#)」も参照。

スキーマ (Schema)

表、ビュー、索引、順序などを含む、名前の付いたデータベース・オブジェクトの集まり。

スナップショット (Snapshot)

スナップショットとは Web-to-Go が Oracle データベースからリアルタイムで取得するアプリケーション・データのコピーで、オフラインになる前にクライアントにダウンロードされます。スナップショットは、データベース表全体のコピー、または表の行のサブセットのコピーです。ユーザーが初めてオンラインからオフラインに切り替えるとき、Web-to-Go はクライアント・マシン上にスナップショットを自動的に作成します。その後、オンラインまたはオフラインに切り替えるたびに、Web-to-Go はスナップショットの複雑さに応じて、スナップショットを最新のデータでリフレッシュするか、全体を再作成します。

整合性制約 (Integrity Constraint)

表の 1 つ以上の列に入力できる値を制限する規則。

接続 (Connected)

サーバーに接続されているユーザー、アプリケーションまたはデバイスを指す一般的な用語。Web-to-Go 用 Mobile クライアントは、オンライン・モードのときに接続されています。

切断 (Disconnected)

サーバーに接続されていないユーザー、アプリケーションまたはデバイスを指す一般的な用語。Web-to-Go 用 Mobile クライアントは、オフライン・モードのときに切断されています。

データベース・オブジェクト (Database Object)

データベース・オブジェクトとは、表、ビュー、順序、索引、スナップショットまたはシノニムなどの名前の付けられたデータベース構造体です。

データベース・サーバー (Database Server)

Mobile サーバーの 3 層 Web モデルの 3 番目の層。アプリケーション・データを格納します。

同期 (Synchronization)

Web-to-Go が Web-to-Go 用 Mobile クライアントと Oracle データベースの間でデータをレプリケートするために使用するプロセス。Web-to-Go は、ユーザーがオフライン・モードに切り替えたときにユーザーのアプリケーションおよびデータを Oracle Lite にレプリケートします。オンラインに戻ると、Web-to-Go はデータの変更を Oracle データベースにレプリケートします。

トランザクション (Transaction)

リレーショナル・データベース内の選択されたデータに対して加えられる一連の変更。トランザクションは通常、INSERT、UPDATE、DELETE などの SQL 文を使用して実行します。トランザクションは、コミットされた（変更が永続的になる）とき、またはロールバックされた（変更が破棄された）ときに完了します。

トランザクションの前に問合せが実行されることがよくあります。問合せを使用して、変更対象の特定のレコードをデータベースから選択しておきます。「SQL」も参照。

パッケージ・ウィザード (Packaging Wizard)

パッケージ・ウィザードを使用すると、開発者は新規または既存の Mobile サーバー・アプリケーションを定義およびパッケージできます。

ビュー (View)

1つ以上の表（または他のビュー）から選択されたデータをカスタマイズして表したものの。ビューは「仮想的な表」のようなもので、複数の表（実表と呼ばれます）およびビューからのデータを関連させ、組み合わせることができます。ビューは表示されるデータの選択条件を指定できるため、一種の「格納された問合せ」といえます。

ビューは、表のように、行と列に編成されます。ただし、ビューには、データそのものは含まれません。ビューを使用すると、複数の表またはビューを1つのデータベース・オブジェクトとして扱うことができます。

表 (Table)

行と列に編成されたデータを格納するデータベース・オブジェクト。上手に設計されたデータベースでは、各表に単一のトピックに関する情報（たとえば、従業員や顧客の住所など）が格納されます。

マスター・ディテール・リレーション (Master-Detail Relationship)

1つの表またはビュー（ディテール表またはビュー）の複数行が、別の表またはビュー（マスター表またはビュー）の単一のマスター行に関連付けられている場合に、マスター・ディテール・リレーションがデータベース内の表またはビューの間に存在すると言います。

マスター行およびディテール行は通常、ディテール表またはビュー内の外部キー列と一致するマスター表またはビュー内の主キー列により結合されます。

主キーの値を変更した場合、アプリケーションでは、外部キーの値が主キーの値と一致するように一連の新しいディテール・レコードを問い合わせる必要があります。たとえば、EMP表内のディテール・レコードが、DEPT表内のマスター・レコードと同期される場合、DEPT内の主キーはDEPTNOで、EMP内の外部キーはDEPTNOにします。「**主キー (Primary Key)**」および「**外部キー (Foreign Key)**」も参照。

モードの切替え (Switching Modes)

Web-to-Go用 Mobile クライアントがオフラインに切り替えたりオンラインに戻るために使用するプロセス。クライアントがオフライン・モードに切り替わると、オフラインで作業するために必要なすべてのアプリケーションとデータが Oracle Lite にダウンロードされます。クライアントがオンラインに戻ったときに、Oracle Lite に対するデータ変更を Oracle データベースと同期します。

レジストリ (Registry)

レジストリには、Web-to-Go の一意の名前と値のペアが含まれます。レジストリの名前はすべて一意である必要があります。

レプリケーション (Replication)

分散データベース・システムを構成する複数のデータベース内で、データベース・オブジェクトをコピーしメンテナンスするプロセス。1つのサイトに適用された変更が取得されローカルに格納されてから、各リモート・サイトに転送され適用されます。レプリケーションは、共有データに対する高速のローカル・アクセスをユーザーに提供し、データ・アクセスの代替オプションを提供してアプリケーションの使用を保護します。1つのサイトが使用不可になっても、残りのサイトに対して問い合わせたり更新できます。

レプリケーションの競合 (Replication Conflict)

レプリケーションの競合は、同一のデータに対して矛盾する変更が加えられたときに発生します。データの正しいサブセッティングによって、レプリケーションの競合を回避できます。パッケージ・ウィザードを使用すると、開発者は競合の対処方法についての規則を指定できます。

ワークスペース (Workspace)

Mobile サーバーのワークスペースとは、Web-to-Go アプリケーションに対するアクセスをユーザーに提供する Web ページです。Web-to-Go は、ユーザーが Web-to-Go にログインした後に、ユーザーのブラウザ内にワークスペースを生成します。ワークスペースは、ユーザーが使用できるすべてのアプリケーションのアイコン、リンクおよび説明を表示します。アプリケーションを使用できるようになるのは、管理者がアプリケーションを Web-to-Go システムにパブリッシュし、ユーザーに対してアクセス権を付与した後です。

索引

M

- MAX_THREADS, 10-5
- Message Generator and Processor
 - 構成, 10-5
 - サイクル, 10-4
- Message Generator and Processor (MGP)
 - 起動と停止, 7-8
- MGP
 - サイクル, 10-4
- MGP のパラメータ
 - MAX_THREADS, 10-5
 - SLEEP_TIME, 10-5
- Mobile サーバー
 - 基本機能, 2-3
 - ステータスの表示, 7-2
 - 操作の一時停止, 7-4
 - 操作の再開, 7-5
- Mobile サーバー・コントロール・センター
 - アプリケーション管理, 4-1
 - 「アプリケーション」タブ, 4-6
 - 「サーバー」タブ, 4-7
 - 「サイト」タブ, 4-7
 - 「ジョブ」タブ, 4-7
 - 「ヘルプ」タブ, 4-7
 - 「ユーザー」タブ, 4-6
 - ユーザーとアプリケーションの検索, 4-5
 - ログオン, 4-2

S

- SLEEP_TIME, 10-5

W

- Web-to-Go
 - 基本構造, 2-2
- Web-to-Go クライアント
 - コンポーネントと基本機能, 2-3

あ

- アプリケーション
 - Mobile サーバー・リポジトリへのアップロード,
 - 6-2
 - 一時停止, 6-7
 - グループのアクセス権の取消し, 6-10
 - グループへのアクセス権の付与, 6-9
 - グループ・レベル・アクセスの変更, 6-11
 - 再開, 6-8
 - 削除, 6-6
 - パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択, 6-22
 - プロパティの変更, 6-4
 - ユーザー・アクセスの取消し, 6-9
 - ユーザーおよびグループのアクセス, 6-9
 - ユーザーへのアクセス権の付与, 6-9
- アプリケーションへのグループ・レベル・アクセス,
 - 6-11
 - ユーザーの除外, 6-11
 - ユーザーの包含, 6-11

か

- 外部認証機能, G-2

さ

- サイト, 2-6
 - Web-to-Go からの削除, 8-2
 - 管理, 2-6
 - 詳細の表示, 8-3
- サイト詳細の表示, 8-3

す

- スナップショット
 - 完全リフレッシュ方法による更新, 10-2
 - 更新可能, 10-2
 - 高速リフレッシュ方法による更新, 10-2
 - テンプレート, 10-3
 - 読取り専用, 10-2

て

- データ同期
 - データ同期ジョブの削除, 9-5
 - 同期ジョブの作成, 9-3
 - 同期ジョブの編集, 9-4

と

- 同期, 2-4

は

- パスワード
 - 外部認証による検証, G-2

ひ

- 表
 - SQL 文を使用した作成, 6-3

ふ

- ブックマーク
 - システム・ブックマークのアイコンの作成, 6-27
 - システム・ブックマークの削除, 6-28
 - システム・ブックマークの編集, 6-27
 - 新規システム・ブックマークの作成, 6-25
 - プロトコル・アイコンの編集, 6-28

ゆ

- ユーザー
 - Web-to-Go からの削除, 5-6
 - アプリケーション・ロールの取消し, 6-13
 - アプリケーション・ロールの付与, 6-12
 - プロパティと権限の変更, 5-6
 - ユーザー・サイトの表示, 5-7
 - ユーザーの作成, 5-2
 - レジストリ・エントリの変更, 6-19
- ユーザー・グループ
 - Web-to-Go からの削除, 5-11
 - アプリケーション・ロールの取消し, 6-14
 - アプリケーション・ロールの付与, 6-14
 - 作成, 5-9
 - ユーザーの削除, 5-11
 - ユーザーの追加, 5-11